



校友会だより

第47号



2024年(令和6年)

中央区立久松小学校校友会

〒103-0005 中央区日本橋久松町7-2

SAPIXサピックスには 合格のメソッドがあります。

『なぜ?』から生まれる『討論式授業』

～子どもたちとのコミュニケーションを重視した授業スタイル～

復習中心の学習法

～思考に広がりを持たせらせん状カリキュラム～

オリジナル教材

～学ぶ喜びに直結する様々な工夫～

授業は週1～3日

～小学校生活や習い事との両立も大丈夫～

※入室を希望されるお子さま、各種特訓・講習などの受講を希望されるお子さまには、「入室テスト」を受けていただいております。お申し込み等の詳細はホームページをご確認ください。



サピックス

検索

www.sapix.com

中学
受験

SAPIXサピックス

小学部

☎0120-3759-50

(日曜・祝日をのぞく11:00～17:00)
SAPIX YOZEMI GROUP



明治座

中央区日本橋浜町2-31-1
03-3660-3939

お切符のお求めは…



または…

明治座ホームページ上で、
チケットのご予約を承っております

インターネット予約「席とりくん」
詳細は、<http://www.meijiza.co.jp> をご覧ください。

感動をクリエイイトする劇空間。



江戸総鎮守
神田明神

<http://www.kandamyoujin.or.jp/>

校友会事業継承への応援、ご協力を (母校百六十周年、未来永劫に向けて)

昭和五十三年卒業

校友会及び運営委員会会長

川口 修一郎

いつもお世話になりありがとうございます。私は名目上で会長になっていますが、校友会の主役は、校友である皆様お一人お一人であり、皆様が懐かしい恩師や仲間と親交を深めるためのお手伝いをする事務局的な立場であると思っています。従ってリーダーシップの発揮の仕方も会社のようにではなく、お願いベースのリーダーシップを心掛けて参る所存です。

昨年の五月の校友会は年度幹事さんの中から選出された校友会実行委員長さんのもと、母校体育館で開催しました。新会員、二十歳のつどい、ホームカミングの会員の皆様を歓迎しました。オンラインを併用す

るなど、運営にあたり、植村校長先生、恩師の先生方、校友会会員等、多くの皆様のご協力を賜り開催する事が出来ました事にあらためて感謝を申し上げます。

最近の学校の様子ですが、久松小学校の児童数増加により、今後教室が足りなくなることが予想されています。対する緊急解決策として、現在休園中である常盤幼稚園のスペースをお借りして、今年の九月から久松幼稚園が暫くの間、中央区立常盤園舎久松幼稚園（現在創立八十二周年の歴史はリセットはされません）として園活動をします。久松小学校の学区にはまだまだマンションが建設される地域があります。校友会として、将来久松小学校、久松幼稚園が再び共に活動ができる様に応援をしていきます。

一昨年、母校久松小学校は創立百五十周年という大変大きな節目の年を迎えました。校友会の会員多くの皆様から、周年基金を

お預かりしました。使途として、周年協賛会に協力し、また歴代の周年式典の写真をデジタル化、修復、カラー化をしました。会員の皆様ご協力ありがとうございました。

最近の校友会活動ですが校友会運営委員会のメンバーの高齢化に伴い、実質活動しているメンバーは極少数の状態にあり、負担もかなり重いものとなっています。このような状態になって、会長職を承っている私がいずれお詫びしなければなりません。

そのような中でも、前へ一歩一歩進めていかなければなりません。是非、校友会の皆様、御多用の中申し訳ございませんが、校友会活動にご支援ご協力を（この部分だけという形でも）お願い申し上げます。

今後たくさんの課題がありますが、会員の皆様にはこれから母校の未来永劫に向けて、校友会事業継承にご教導賜れば幸いです。ありがとうございます。感謝いたします。

久松は一つ 力を合わせて

第二十二代
久松小学校校長 植村 洋司

若葉・青葉の色も一段と濃くなり、今年も久松校友会総会の季節となりました。校友会の皆様には、日頃より久松の子どものために様々な形でお力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、本校では毎年約五十名ずつ児童数が増え、全校千人程となり、益々活力ある久松となっております。

本校の教育目標は「強く 正しく 豊かに」です。このことを、次のように捉えています。○心身ともに健康で、自律と自立のための強い意志と向上心を持ち、自らよりよい成長を目指す。

○ものごとを正しくみつめ、正しい判断と行動のできる主体性を身に付ける。

○豊かな心情や創造性を高め、互いに尊重し合い、思いやりの心を持ち、共生社会の新しい時代の担い手となる。

この教育目標実現のための学校経営の基本理

念として、①楽しさのある学校、②厳しさのある学校、③信頼感のある学校の三つを挙げます。

さて、昨年度は、世界保健機関が、五月五日に新型コロナウイルス感染症をめぐる世界の現状について、二〇二〇年に発表した「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」の終了を宣言しました。日本においては、五月八日よりこれまでの二類の取扱いから五類へと引き下げられ、大きな転換点を迎えました。学校は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大という危機的な事態に直面して以来、この三年間、感染状況の予測が極めて困難で先行き不透明な中で、正解のない問いにどう立ち向かうのかを常に問われ続けてきました。どのような状況にあっても、学校は全ての子どもたちが安心して楽しく通える魅力的な場所であってはなりません。そのために、目の前の事象から解決すべき課題を見いだし、主体的に考え、多様な立場の人々と協働的に議論を重ね、納得解を生み出す努力をしてきました。どんな困難があっても、その本質を問い考え、いかに実現できるのか知恵をしばり、組織として力を合わせて前に進む久松でありたいと考えました。この極めて困難な時節、久松

の保護者・地域・校友会・関係の皆様は、本当に温かく学校を応援し、御支援いただきました。改めて、心より感謝申し上げます。

本年度は、久松にとつて、大きな転換点を迎えます。久松幼稚園の常盤園舎への移転です。久松園舎での教育活動は一旦一学期までとなり、夏季休業中に引越となりします。小学校としても誠に残念ではありますが、これまで築き上げてきた幼小連携については、引き続き大勢に委ねてまいります。具体的には、日常的な交流活動を、オンラインも活用しながら、様々な工夫を進めていこうと考えています。また、秋には、幼小合同イベントとして、「久松フェスティバル」を浜町運動場にて開催する予定です（十一月十三日（水））。久松幼小の子どもたちを囲んで、学校・家庭・地域が一体となったイベントにしたいと計画しています。「久松は一つ」を合言葉に、引き続き「幼小連携」を大事に前へ前へと進んでまいりたいと意を強くしております。校友会の皆様には、久松の子どもたちのために、引き続きの御支援・御協力をお願いするとともに、校友会の益々の御発展をお祈りいたします。

年度恩師あいさつ

懐かしい町

平成六年卒

一組担任

宮永 喜美子

私は現在の地名で言えば「中央区東日本橋一丁目」で生まれました。でも、九十年近く前のことですから「中央区」も「東日本橋」も地名としては存在していません。

その頃は、「東京府 東京市 日本橋区 矢ノ倉町」と呼ばれていたのです。「府」とか「市」が東京の地名に付いていたなんて、びっくりされることでしょう。東京がどんな大きな街になり、「府」や「市」を廃止して「東京都」になったのは、私が小学校二年生になってからでした。

では、久松小学校の卒業生かと言うところではありません。家の近くには、もう一つ小学校がありました。千代田小学校です。

私が三年生になったとき、太平洋戦争が激しくなると、東京中の三年生以上の児童は、親元を離れて地方へ疎開をすることになりました。私は田舎がなかったので、千代田小の先生と三、四年生六、七十名くらいで一緒に埼玉県のお寺へ学童疎開をしました。翌年の三月九日夜半、東京方面の空が夕焼けのように赤く染まっているのを寒い北西風に震えながら、お寺の濡れ縁に出て、みんなで見えていたのをはっきり覚えています。

子供は疎開していたので助かりましたが、東京にいた保護者の中には、命を落とされた方も大勢いらっしゃいました。

戦争に負けてから、日本の教育制度が大きく変わりました。千代田小学校はまる焼けになったので、そこに、今の日本橋中学を作ることになり、千代田小は廃校になりました。東京へ戻ってきた千代田小の子供たちは、久松小学校の児童として卒業しましたが、親の都合で焼け跡に戻れない人が

ほとんどでした。私もその中の一人です。私は現在、文京区民ですが、中央区も文京区も私が中学生になった頃できた新しい区名です。日本橋区と京橋区が合併して中央区ができたように、沢山あった区も合併して二十三区にまとめられました。世の中が目まぐるしく変わる時代でした。

「教師生活の最後は思い出深い故郷で」という願いが叶い、久松小学校で教員生活にピリオドが打てたのは本当にラッキーでした。その時受け持った子供たちが卒業から三十年経ち、校友会の幹事として活躍してくれているのは本当に嬉しいことです。毎年、校友会のご案内を頂戴し、会誌を拜見していますが、久松のように途切れることなく校友会の活動が続いている学校は少ないと思います。卒業生が校友会のバトンを確実に後輩に渡していく、この素晴らしさが、途絶えることのないようお祈りしております。本当に有難う！

久松小学校での最後の卒業生

平成六年卒

二組担任

三田

盛久

私は久松小学校に十年間在籍し、そのほとんが五六年生の担任でした。その最後の卒業生ですので、皆さんとの二年間は格別の思い出です。

皆さんは、四年生から六年生までの三年間同じクラスメイトであったと記憶していません。児童数の関係で四年進級時に編成替えがあり、そのまま卒業まで進んだ学年でした。特に私の担任した二組は、一人一人の個性が豊かで活力溢れる学級でした。とにかく集中力と競い合う力がすごかったことが記憶に残っています。体育では、サッカーやバスケットボールの試合をするとお互いのエネルギーの爆発力が凄くて見ていて圧倒されました。練習で教えたことをすぐに身に付け、試合に応用するので、教えがいても感じていました。

五年生の二学期末には、社会科の全国大会に向けた提案授業がありました。そのため他区の教員の参観も得ての授業公開でした。「生活を支える運輸」という内容で子供主体のグループ発表型の授業をしました。皆さんの学習姿勢と発表内容が素晴らしかったので、授業後の研究会で絶賛されたことは忘れられません。皆さんの素晴らしさを内外に示した機会にもなりました。

六年生になると、様々な学校行事で学校をリードする立場になりました。久松小学校は歴史と伝統を重んじる校風ですので、行事に注ぐ時間が限られる中でも完成度の高さが暗黙のうちに求められました。秋の運動会では組体操を立派にやり遂げました。本栖湖移動教室は、小諸の宿舎が老朽化で廃止となった移行期直後でした。宿舎となった本栖ロッジは、区民の保養施設でしたので一般用の個室です。学校としての指導マニュアルもまだ確定していない時期で、個室ではいろいろなハブニングがありまし

たが、今となってはいい思い出です。いろいろな出来事がありました。男女の仲が良く立ち直りが早いエネルギー溢れる皆さんに支えられた二年間でした。卒業式総代を務めたのは二組（神谷さん）です。六年二組の歴史のいい締めくくりになりました。

〔校内で学級担任を発表する日の通勤途中のことです。私は、学校手前で信号待ちしていた当時の桑原校長と出くわします。その時突然、「五年生の担任をしてくれないか」と言われたのです。事前に他の学年を告げられていた私は驚きました。信号が変わるまでに決断したのが皆さんとの二年間になりました。〕

出合いとは不思議なものです。卒業後三十年を迎えた皆さんには、今後ご自身の人生を大切に歩んでいただきたいと願っています。その支えの一つが久松小学校での学びと思いい出となっていれば幸いです。

思い出は日々の中に

平成六年卒
三組担任 多田 栄子

思いがけないお便りをいただいたのは、秋というにはまだ暑い十月後半でした。平成六年卒業の幹事の方からのお手紙でした。校友会への寄稿をという依頼に、そんな大役を務めることができるだろうか、そんな思いでいっぱいでした。

しかし、わずか四年の在任期間に二年間担任として共に久松小で過ごしたことは、私にとって素晴らしい日々の積み重ねでした。

久しぶりに手に取った卒業アルバムに並ぶ三組二十七名の笑顔の写真を見た瞬間、一気に三十年前に戻っていました。一人一人の声からしぐさまで目の前にいるかのようには思い浮かんでくるのです。いつも、学級を中心としてまとめてくれたリーダーには、どれだけ助けてもらったことか。「大き

くなったらお父さんのお店を継ぐ」と、笑顔で話すのを聞いてどれだけ感心したことか。もめ事が起きて、「大丈夫。ぼくたちで解決できるから。」という言葉に、どれだけ頼もしさを感じたことか。

一人一人がいろいろなことを考え、自分たちで決めて行動できるクラスでした。教室はいつも笑い声が絶えず、二十七人が一つの家族のようだと、いつも思っていました。担任の私の方が、教えられることも沢山ありました。

最高学年の六年生では本栖湖の移動教室が強く印象に残っています。ホテルに泊まるということ、食事のマナーやナイフ・フォークの使い方も練習しました。白糸の滝や本栖湖を見学したりしましたが、富士山の五号目をハイキングした時は、富士から見える雄大な景色に皆が歓声を上げていたことを、鮮明に覚えています。自然の中に身を置いて、普段とは違う体験をするのが、人間の成長には大切なことだという

ことを、改めて感じました。

移動教室が終わった後の皆さんは、一回りも二回りも大きく成長したと感じました。進路について考えたり、悩んだりしながら卒業に向けての様々な取り組みを重ね、すばらしい卒業の日を迎えました。心から門出を祝福したことを今でもよく覚えていきます。

卒業から三十年。社会の中核として活躍している皆さんは、どんな「大人」になっているのでしょうか。変化の激しい社会の中で、時には思いとは違うことを、強いられることもあるかもしれません。しかし、人として譲ることができない、魂とも呼ぶべき自分自身を持ち続けてほしいと願っています。久松小を卒業した誇りを持ち、ささやかでも、社会に貢献できたという人生を送ってほしいと願っています。

久松小学校、第一一六回卒業生の皆さんの輝かしい今後の活躍を、心から応援しています。

平成十五年度卒業生との思い出

平成十六年卒
一組担任 香取 眞理

平成十六年に卒業されてからもう二十年もたつてしまつたのかと月日の流れの早さに驚かされます。社会の中では中堅というにはまだ早いかもしれませんが、若々しく力に満ちている年頃ですね。

この原稿依頼を受け、久し振りにアルバムを開いてみました。

どの写真からもその時の会話や歓声が聞こえてきそうでした。色々あった大きな行事の思い出もさることながら、給食時や休み時間のたわいのないおしゃべりや授業での活発な話し合い活動で盛り上がったこと、男女の仲がとて良くいつも笑顔があふれていたことを思い出します。

とはいえ、大きな行事「館山臨海学園」

「百三十周年行事」等々の様々な経験は、子どもたちの視野を広げ心を豊かにしてくれました。また、色々な場で、他学年と交流することでやさしさを学び、協力する大切さも学んでいったことがわかります。

まだ幼さが残る五年生だった子どもたちが二年後、卒業する三月には顔を上げ胸をはり自信に満ちた姿で卒業証書を受け取っていました。そして、卒業式後の校庭送り出しの前に廊下で待機していた時、学年全員で歌った「旅立ちの歌」の澄んだ美しい歌声はいつまでも心に残っています。五・六年と同学年を組んだ一組は私、二組小山勝利先生、三組松岡秀子先生とは悩みや喜びを共にわかち合い、協力し合っていたことが子どもたちにも通じ、学年九十六名の心が一つになった瞬間でした。

久松小学校に在籍した十年間はとても充実していました。子どもたち、保護者の皆

様、地域の方々、教職員の皆様との出会いに感謝するばかりです。

「今日に感謝し、明日をもっと良くしようと努力する」ことを学びました。

教職を離れ十年になりますが、その間コロナ禍で学校現場は大きく変わったことを伝え聞きます。先生方のご苦労はいかばかりかと想像するだけですが、子どもの本質は何も変わらないと思います。光の方に伸びる植物のように、もっと成長しよう。もっと頑張ろうと伸び続けていると思います。そんな子どもたちにとっての水や肥料となるすばらしい環境が久松小学校にはそろっていると確信しています。

久松小学校、久松幼稚園が益々発展するとともに、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

感謝の気持ちと共に

平成十六年卒

三組担任

松岡 秀子

皆さんの卒業式から二ヶ月後、校友会の集いで満面弾ける笑顔に再会。その八年後、成人を祝う会で遅しく、輝くばかりの立派な姿の皆さんとの再会。そして、今、卒業後二十年の節目を迎えた皆さんは、どんな社会人になっているのだろうか、想いをめぐらせています。校友会という久松ならではの強い絆で結ばれている同窓の会のお陰で、今また、皆さんと共に過ごした時を懐かしく思い起こせる機会を頂き、感謝、感謝です。

私は、皆さんが五、六年生の時に、一組香取先生、二組小山先生、三組松岡と、三人で担任させて頂きました。久松に異動してきたばかりの私は、気持ち良い挨拶をする礼儀正しい皆さんを見て、久松の教育が日常に根付いている素晴らしさを実感したものでした。うわさにたがわぬ「天下の久松」

で、皆さんの担任をすることへの責任の重さを再確認したスタートでした。

高学年として「一人ひとりが久松の顔となる」を合言葉に、折りに触れて全員が集まったの学年会で、よく話し合い、確認し合って歩んだ二年間でした。当時の皆さんは、活力と行動力にあふれる仲の良い子どもたちでした。今思うと、三人の担任は子どもたちのやる気に背中を押され、前に進めたことも多かったのではないかと思います。

個性豊かな子どもたちが、実にたくさんいました。教科学習、学校行事、休み時間等の中で、たくさんの子どもたちが自分の得意を生かして活躍しました。懸命に取り組む姿を友達同士で認め合い、褒め合う姿も温かいものでした。二十年以上経った今も、ふとした折りに、当時の姿や顔が思い出され、胸が熱くなることがあります。

さすが久松と、印象に残っている出来事があります。開校百三十周年の式典に参列した五年生の子どもたち。遅れた開式時刻

から閉式までの長時間、子どもたちは身じろぎもせず、その小さな背中からは、真剣さと懸命さが伝わってきました。その驚きと感動は、後々まで語り継がれたものでした。また、校外学習での規律ある行動や、周りの人々への思いやりある言動を目にした方々からは、お褒めの電話や手紙を頂きました。そのことを紹介した時の皆さんのうれしそうな反応も忘れることはできません。

二十年の時の流れと共に、久松の地域の様子も大きく変わり、児童数も千人近い大規模校となりました。しかし、現在に至るまで変わらないもの、それは、久松の「強く正しく豊かに」の精神と、それを継承していくたくさんの子どもたちです。地域の方々や校友会の方々、久松を温かく見守って下さる全ての方々に感謝すると共に、皆さんが誇りをもって、自らの道を切り拓き、自分らしく歩んで行ってくれることを願ってやみません。

年度幹事特集

昭和五十九年卒

年度幹事のごあいさつ

三組 米津(岸田) 彩

僣越ながら、様々なお仕事をしていたりっしやる幹事の皆様を代表してごあいさつさせていただきます。

一昨年、久松小学校は百五十周年を迎え、大変盛大に式典行事が行われたことを伺っております。年度幹事は、それぞれ、百周年、百二十周年、百三十周年、百四十周年を経験しておりますが、皆様ご自分の周年行事のことを思い出し、また久松小学校の歴史が一つ刻まれたことを、卒業生として嬉しく思ったのではないのでしょうか。

久松小学校での思い出は数え切れませんが、やはり特に百周年式典に、当時皇太子でいらっしやった現天皇陛下がご臨席に

なったことを思い起こします。音楽の齋藤先生の指導の下、式典のために結成されたハーモニカ隊で、特別な楽曲を演奏して陛下をお迎えしました。私は音の出にくい低音パートの楽器で、実はとても苦心して練習して当日を迎えたように思います。緊張しながら頂いた「一日一日を大切に」というお言葉を胸に、当時の生徒たちは卒業していったのではないのでしょうか。

久松小学校を卒業して、四十年が経ちますが、人生のいろいろな場面で奇遇にも久松の卒業生と出会う場面が何度もございました。私は大学の教職課程の授業を担当しておりますが、昨年、履修学生の一人が授業のふとした折に「立原道造さんが小学校の同窓で、その詩に親しむことがあって……」という話を話していて、「ああ、あなたも久松なのね。」と思ったことをよく覚えています。久松小学校の卒業生としてその伝統に誇りを持っているからこそ、同窓の大先輩である詩人に興味を持ち、全くの偶然からそれを語ったのでしょう。久松出

身であることに矜持ある卒業生ならではのエピソードだと感じます。

また、年度幹事として大変光栄なのは、恩師である先生方と改めてお話する機会を持つることです。今回残念ながら、誌面でのご挨拶は頂けませんでしたが、私たちの卒業年度にご担任であった一組角田先生、二組藤村先生、三組富樫先生、四組小林先生、四名の先生皆様、ご健在でいらっしやいます。こうして最後の校友会年度幹事を迎えられることができました。特に担任であった富樫先生とはお電話でもお話いたしました。現在もご活躍の様子で、全くお変わりのない元気なお声に励まして頂きました。どんなに月日が流れても「永遠に変わらぬ色見せて」いる、この人と人とのつながりこそが、久松小学校の宝であると感じてやみません。この校友会も多くの方のつながりに長年支えられております。久松小学校に携わる全ての方のご息災とご活躍を祈念いたしております。

昭和五十九年卒

四十年の時を経て

一組 鴻野 豊子

久松小学校を卒業してから早いもので四十年の年月が流れました。そして今年は年度幹事として運営のお手伝いをさせていただくことになりました。運営委員の皆さんとお会いし、あらためて久松の伝統、同窓生との繋がり良さを感じております。

卒業から四十年経った今でも、久松で過ごした日々を私はよく覚えています。創立百十周年を経験できたことも、当時のことを鮮明に覚えている理由の一つでしょう。当時五年生だった私たちは、記念式典にも参加させていただきました。現在の天皇陛下、当時皇太子殿下であられた浩宮徳仁親王殿下をお迎えし、「一日一日を大切に」のお言葉をいただきました。校庭で浩宮様が私たち一人一人にお言葉をかけてくださった時、どきどきしながら整列していたことを思い出します。夏にはオーケストラからビルテナー少年合唱団の訪問がありました。

彼らを迎えるために練習したドイツ語の歌は今でも口ずさむことができます。全校生徒で書いた詩集、みんなで作った記念の七宝焼き。おそらく久松に通っていた私たちは、普通の小学生よりもはるかに多くのことを経験させていただいたのではないのでしょうか。

周年行事だけでなく、心に残る思い出は数えきれないほどあります。担任の角田元良先生がNHK教育テレビ『理科教室』に出演されていたことから、私たちのクラスが特別に番組に出させていただいたこともありました。そのことは六年一組のみんなのちよっとした自慢だったのではないかと思います。

今思えば、小さな子供にとって、学校は自分のすべてと言ってもいいほど、生活の多くの部分を占めています。久松で過ごした毎日は、私にとって、ただただ楽しい世界でした。

その小さな世界が終わる、卒業の日。それは私の人生の最初の大切な節目でした。角田先生からいただいた言葉を今でも覚えています。

「ここにいるみんなが全員揃って会うことは、もう二度とないかもしれません。みな

さんは、これから何か一つでいいので『続けて』ください」

クラスメートは皆、その言葉を聞いて泣いていました。初めての別れを経験し、私たちは中学という新しい世界に進んでいきました。

角田先生のお話にあった「続けること」。私は何か続けていることはあるだろうかとか時々考えることがあります。継続とはなかなか難しいものです。しかし、私は久松で作った友人たちと今でも連絡を取り合ったり、お酒を飲みに行ったり、交友関係を続けています。そして、大人になってから、改めて親しくなった同級生もたくさんいます。彼らと会うたび、小学生時代の自分に戻ることができ、また私が覚えていない話を彼らから聞いて、記憶がアップデートされていきます。一番安心できる場所。それが久松小学校で出会った友人たちです。

実は、私の娘たちも久松小学校でお世話になっていきます。彼女たちもたくさんの友人に囲まれて、たくさんの楽しい思い出を久松で作っています。私がそうであるように、久松での出会いや思い出は、きつとこれから卒業していく子供達の支えになっていくことでしょう。

昭和五十九年卒

卒後40年に、久松を想う

二組 伊東(義田) 千絵

卒後20年、久松の校長となった藤村雄二先生からの年度幹事依頼をきっかけにクラス会が定期的に開かれるようになった。卒後30年、先生の大病からの回復もありご夫妻で参加のクラス会も続いたが、新型コロナウイルス感染拡大でしばらく中断、昨年ようやく再開することができた。そして卒後40年となるが、この20年の経過の中では友人たちとの悲しい別れも経験した。しかし先生が校友会だより第32号に書かれたように、クラス会を大切な機会として、また10年後もみんなで集まり続けていたいと願う。

40年前を思い返すと、柏学園の桜に芋掘り、館山の臨海学校、小諸の修学旅行などの行事や、親子二代でお世話になった(母は東華小学校にて)齋藤仁先生ご指導の合唱団やプラスバンド、ハーモニカバンドに

学芸会と沢山の思い出がある。中でも今上天皇(当時は浩宮殿下)が来賓としていらした10周年記念式典を経験したことは忘れられない。何より転校したばかりの私は、物凄く学校に来てしまったと感じたことが忘れられない。私が久松で過ごした期間は短いので、みんなの思い出も合わせて載せておきたい。

・久松幼稚園にお迎えに来る母たちが当時割烹着姿だった。(藤村園長時代に私が娘を迎えに行く際は、エプロン姿では行けなかった)

・入学して最初に隣の席に座った子は忘れない。(加納君、本当に覚えていてる?)

・藤村先生がウクレレを弾いてみんなで歌っていた。6年2組の学級歌もあった。

(芳美ちゃん、今でも歌える?)

・大雪が降った日、校庭に積もった新雪に2組が一番最初に足跡をつけて遊んだ。

(えっちゃん、本当に嬉しそうだったね)

・最後の運動会のリレーでこけたこと。(苗さんは本当に足が速かったから、悔しうだったなあ)

このようにクラス会ではいつも懐かしい話

に盛り上がる。藤村先生がまた顔を出して下さる日をみんなで待っている。

ところで私は神奈川県東地区の大学へ進学したが、久松町から車通勤をさせている一人の教授と出会った。やはり久松の大先輩で、ここで先輩に出会えるとは大変喜ばれ、何度か車で送って頂いたことも忘れられない思い出である。卒後そのまま大学病院に勤務したが、10年近く前になるだろうか、医局の後輩にとうとう久松の卒業生が現れた。同窓生に会えるというのは本当に嬉しいことだと、当時の教授の言葉や意味を改めて実感した。

ミッシヨンスクール進学を機に、私は浜町にある日本基督教団日本橋教会に通っており、今は教会学校の教師もしている。中学進学を機に私のように教会に来るようになった子供たちに、久松小学校の最近の様子を聞くこともある。教会には先輩達もあり、時代を超えて久松の話に盛り上がる時、同窓生のつながりを大変嬉しく思う。

この素晴らしい久松小学校の校友会活動が、これから先もずっと引き継がれていくことを心より願っている。

平成六年卒

Reunion

二組 田中 延幸

平成6年3月に卒業してから約三十年の月日が経ちました。年度幹事として校友会の会議に参加した事を機に「同窓会を開こう！」となり、昨年十二月に集結しました。SNSや手紙で声をかけ、集まったのは総勢二十七名。

幼少時代から近況の話に花が咲き、大いに盛り上がりました。卒業以来の再会に朝4時まで語り合う人もいたほど。コロナ禍を経て改めて、大勢で集まれるようになった事にも嬉しさを感じました。まだまだ話し足りませんでした。

凄まじい時代の変化と共に、生まれてから今までを歩んで来れた年代だと思います。私達が在学していた頃は稀有で貴重な体験を沢山させて頂きました。

人数が少なく、入学時から3年生までは2クラスのみ、クラス替えもありませんでした。そして異例だと思えますが、4年生になる時、転校生が来て3クラスになり、初

めてのクラス替え。ドキドキしたのを覚えています。

6年間に一回しかクラス替えがなかったんです。人数が少なかったこともあり、皆面識があり、今でも繋がりが深いように思っています。

同窓会でも三十年のブランクは一切感じませんでした！

4年生の時、開校一二〇周年で秋篠宮皇嗣同妃両殿下がお越しくださいました。

式典もですが、私達の作った作品などもご覧頂き、全てにおいて緊張したような気がします。久松だからこそ経験できた貴重な思い出だと思っています。

昨年開校一五〇周年の折も両殿下がご来校された事を耳にしました。在学当時とは校舎や生徒数は少し変わりましたが、久松の伝統を守りつつ、益々の発展を祈り、長く愛され続けられることを願っています。

6年生の時は、移動教室で「ヴィラ本栖」へ。私達は運の良い事にヴィラ本栖が出来るから初めて利用する学年でした。フレンチのフルコースを頂いて、ホテルのような部屋に泊まり、何もかもが目新しく、みんなの目が輝いていたような記憶があります。

他にもみんなで集まって思い返せば不思議と鮮明に思い出す数々の体験。何故か当時辛かった事も今となつては全てが笑える楽しい思い出として残っています。

校友会を機に皆さんも集まって思い出を語り合ってみてはいかがでしょう！

末筆ながら、このような貴重なきっかけをいただいた年度幹事の機会、また今まで絶えることなく続けてくださっている運営委員の皆さまのご尽力に心より感謝申し上げます。



平成十六年卒

20年ぶりの再会

二組 本山(住友) 麻衣

社会人になって7年が経ち、久松小での6年よりも長い時間を過ごしていることに気づきました。私は中央区の会社に勤めており、僅かながら久松小との縁を感じています。

写真は、今年の1月、学年合同の同窓会の時のものです。26人が集まりました。

卒業式以来の再会となった同級生も数多くいたので、皆の前での自己紹介から始まりました。小学校の頃の夢を叶えている人、意外な仕事に就いている人、パパ・ママになっている人など……驚きの連続で、卒業後の20年間の月日の長さを実感しました。と同時に、同級生との会話を通じて、当時の思い出がどんどん蘇ってきました。

*ドッチボール…20分休み・昼休みにはチャイムと同時に校庭に駆け出し、楽しんでいました。

*水泳…合格するともらえるシールを励みに検定に挑戦しました。地獄のシャワー(冷たかったのでみんなでそう呼んでいました)が懐かしいです。

*書き初め…学年全員が体育館に集まりシーンと静まり返った中で、自分の一番の出来を目指し取り組みました。

*卒業式…起立のタイミング・卒業証書の受け取り方など、何度も何度も練習しました。

*5分前行動…久松小で学んだことの一つです。社会人の今でも大切にしています。

何気ない一日がとても懐かしく、今振り返るととても充実した6年間だったのだと改めて実感します。と同時に担任の小山先生をはじめ諸先生方、私たちを見守ってくださった皆様のおかげだと感謝の気持ちです。今回、校友会の学年幹事となったこと

がきっかけで多くの同級生と再会することが出来ました。またの再会を楽しみに、毎日を過ごしていきたいです。



先輩からのおたより

そろばん60年の感謝

育英そろばん教室 谷 賢治

昭和三十年卒業 谷（藤井） 俊子

校友会の川口会長からこの稿の執筆を依頼されたとき、私は驚きと感動そして光栄の極みと心が震えた。私の妻が久松小学校の卒業生ということもあって、この「校友会だより」は長い間私も愛読させていただいていた。

私は白鷗高校を経て明治大学商学部を卒業し、珠算部も終えて、青雲の志に燃えインドネシアでそろばんの紹介と普及活動に赴いた。帰国後兄の谷幸夫（後に都立三商高校校長）の紹介で、日本橋橋町（現在の東日本橋3丁目）にあった同仁珠算塾を託された。昭和39年4月のことである。その塾は斎藤嘉平衛先生が戦後間もないころに

創設したものである。それが妻と二人での指導の第一歩であった。この地域で、たくさんの方々を支えられて60年もの長い間ささやかな「そろばん教室」を続けることができたことは、多くの人々に感謝するばかりである。

久松小学校と深いかわりのある愛媛県松山市の久松定謨氏のご次男で、長く愛媛県知事として活躍された久松定武氏の著書に「東大を出て三菱銀行に入ったら、そろばんをずいぶん練習させられた」という記述があった。そのそろばんの先生は、私のそろばんの恩師である安部元章先生（北区の安部学院高校創設者）のそのまた恩師である高井計之助先生（日大・講師）であると思われる。

公教育において平成16年度から、専門家による出前授業の制度がスタートした。私が入った久松小学校に算数科の中のそろばん授業のお手伝い上がったのは平成17年2月からである。当時の「学校要覧」には藤村雄

二校長、児童数524名とある。以来昨年12月までで18年間のご縁である。

私の教室は、橋町から現在の東日本橋2丁目町公会館に移転し、そこでお世話になってからでも35年が経過した。これまで60年の間に久松小学校の児童たちなど多くが珠算と暗算の技能と資格を取得し巣立っていった。この教室の他に北区にも教室があるが、生徒たちがそれぞれに活躍している姿が見えるのはうれしいことである。植村校長先生は北区の教室で、前述の川口会長、中央区議の神谷俊宏氏は橋町の教室で、そろばんを練習された。他にも多くの方々がおられる。

私自身は「日本そろばん資料館」の学芸員として、映画などのそろばんの場面では時代考証やそろばん指導にあたっている。「武士の家計簿」、「天地明察」、「銀河鉄道の父」などでは堺雅人、岡田准一、役所広司の諸氏にそろばんを指導した。

高齢者の独り言

昭和二十七年卒業 渡辺 俊夫

脱稿直前に能登半島地震が発生し、多くの犠牲者が。被害甚大で早期復興が待たれます。心からお見舞い申し上げます。

私は昭和二十一年入学。終戦直後の小学校教育が温かく、人間味に溢れていたと思いがされる。被災校舎の床はコンクリートがむき出し。ボルトが顔を出している。校内いたるところが危険地帯だ。屋根が抜け落ちた講堂は立ち入り禁止。焼けただけ、ガラスさえ満足に入っていない教室で「越冬」した事実は動かしようもない。先生方も、住宅事情、交通事情の劣悪さを耐え勤務していた。無事に、健全に育ったのは、教師や級友との真の交流が基だ。

夏の夜に金座を行けばすずかけの並木のかげに明治座のあかり（立原道造）

大川端夜景

金座とは金座通り（現・清洲橋通り）のこと。昭和二年卒業、不世出の抒情詩人・立原道造は、ソネット（十四行詩）に独自の境地を開拓。詩業確立以前には短歌も手掛けていた。

区内各校から毎月「学校だより」を頂く。昨年二学期、某小学校校長の挨拶は「AIで作成」と断ったうえ、全文を掲載していた。断り書きがなければ、校長自らの筆と区別できない。読み手の鑑識眼が問われることになりそうだ。

今後、AIを駆使し立原もどきが次々世に出るだろう。誇りを捨てたエセ詩人を出るだろう。「立腹（たちばら）」とでも呼ぼうか。彼は難解な表現で高踏を装わなかった。AIには好都合。四季派の抒情など恰好の標的になるのでは。

科学の進歩は我々にある種の警戒心を植え付けた。何を採り、何を捨てるか。選択を誤れば索漠とした世界が広がるだけだ。

かつて「立原道造を偲ぶ会」では、お身内や交友関係のあった方々に交誼を頂いた。猪野謙二、小山正孝、神保光太郎、杉浦明平、室生朝子、山崎剛太郎など諸氏のお顔が浮かぶ。

堀辰雄の夫人・多恵子氏は、繊細なお人柄だった。ある時、多恵子氏から「うちへ寄っていらっしやいませんか」とお誘いが。ご厚意に甘え、夫人の運転で堀邸へ。そこは緑あふれる思索の空間だった。私は軽井沢高原文庫で毎夏開かれる「高原文庫の会」に参加を続けていた。文庫の前庭には立原の詩碑がある。校友会もその建立資金集めに加わった。常任幹事の十人ほどを親睦旅行でここへ案内したのも遠い昔となった。

道造の抒情は川端康成に近い。名作『雪国』刊行六十周年記念として、平成九年、国内外に呼び掛けた大規模な関連行事があった。舞台となった越後湯沢での「『雪国』展」では、川端文学研究会会長・長谷川泉氏の推挙で、私も委員の末席に連なった。川端香男里、羽鳥徹哉、平山三男氏な

ど錚々たる研究者がお揃いの中で恐縮したものだ。

長谷川氏は川端と立原との相関に関心を寄せておられた。舞台となった高半旅館(高半ホテル)での懇親会の席上、委員諸氏が所見を開陳。私は立原詩学を踏まえ拙論を述べた。韻文、散文の垣根を超えた文学の交歓である。後日、至文堂の『国文学・解釈と鑑賞』雪国特集号へ執筆の機会も与えて下さった。

高半旅館には久松小時代の大切な記憶がある。当時、遠足は日帰りが鉄則。修学旅行さえ同様で、卒業式翌日に伊豆長岡への一泊旅行を果たしたものだ。「卒業すれば小学生としての規制から外れる」との解釈だ。その修学旅行前の冬休み。高半旅館に私たち六年生の多くがスキー教室で泊まっている。学校行事ではなく「久松町スキー同好会の催事」として行われた。窮すれば通ず。

開校百三十周年記念式典を担当した宮崎和敏校長は昨年「秋の叙勲」で瑞宝双光章

を手にされた。おめでとうございます。

先生は校名の由来を聞きに拙宅へ来られたことがある。「お染久松の芝居に関係でもあるのですか」と。私が個人的に取り組んでいた十年来のテーマに結論が出た直後である。「町名が基という定説が劇的に覆ります」と申し上げ、直後に発行された本誌上で発表した。本校校名と、お染久松とは無関係なのである。

大坂で実際にあつた悲劇を下敷きに、鶴屋南北は舞台を江戸に設定し「於染久松色読販(おそめひさまつうきなのよみうり)」を書いた。当時はたびたび疫病が流行。「お染風邪」もあり、庶民は「久松るす」という紙を戸口に掲げた。お染に「私は留守だから来ないで欲しい」と宣言したのだ。お染は「感染」の暗喩。慎重派の私はこの四年間、東京から一歩も出ていない。お陰でお染の来訪もない。

本校周辺は「芝居町」であつた。何軒もの講談、落語の寄席もあつた。終戦後、人

形町商店街にあつた松竹映画館はいち早く復活。人気沸騰直前の三波春夫の実演を見た。その後、近くには東映、日活、大映など、東宝を除いた大手映画館が次々オープンし、一帯は映画街となつた。人気絶頂の中村錦之助、大川橋蔵の主演作品などは、客が映画館を幾重にも囲むほどの盛況。北上弥太郎は、私が住んでいた町内の北上電気の息子。デビュー当時の店頭は黒山の人だかり。だがテレビの普及とともに映画館は次々と撤退。いま、芸能の流れは大劇場・明治座によつて受け継がれている。

一昨年の開校百五十周年記念式典には、松山から久松昂子氏のご臨席下さつた。また昨年五月には、ご子息・定智氏ご夫妻に坊ちゃん誕生、との弾んだお声の電話も頂いた。この久松家こそ本校校名の起源なのである。

ご先代定成氏は、昆虫分類学という専門性の高い分野で研究一筋であつた。ご当主も同じ道を歩んでおられる。若きご夫妻に、松友会から心ばかりのご出産祝いをお贈り

した。定智氏からは、お子様が唯々幸せに生きてほしいとのお便りや答札の品を頂いた。

さて、来年は「松友会」結成三十周年。

校友会で長年に互り尽力した常任幹事が、引退後に集う組織。当然、高齢者集団である。

平成六年十二月の校友会常任幹事会で検討され、翌年五月、正式に発足。母校の外郭団体として認知された。私が会長、先輩の奥田英雄、中島健両氏が副会長という構成に恐縮。ご理解下さった細井隆輝校長はじめ、各組織に改めて感謝申し上げたい。松友会の役割は「真正な校史の語り部」にある。昨年末の例会で再確認した。実はいま、その問題に直面している。

昨年、母校が出した『開校百五十周年記念誌』に重大ミスがある。三十年間、胸の奥に留めて来た「あの事」が原因だ。やむを得ない。経過を明らかにしよう。皆さんはどうお考えか。

同誌の35頁「久松小学校のあゆみ」には

「平成四年三月、秋篠宮同妃両殿下の御成りを仰ぎ、創立百二十年記念式典を挙行」と。

違う。百三十周年、百四十周年の記念誌が繋いだ「平成四年の標記」は水泡に帰した。実際は「創立百二十年記念式典」として挙行された。看板、諸印刷物など全てこの標記だ。

本校は明治六年（一八七三年）三月九日創立。校地決定の日である。

「開校」は教育活動開始を指す場合が多く、本校の場合は同年七月二十七日。校長（匿名）が執心する式典挙行日とは距離がある。

校長は「開校」を「創立」に置き換えた。だが、式典挙行日は平成四年四月一日以降でなければ「周」の要件を満たさない。

そこで「周」の字を削除し、式典を強行した。

正規の記念日より丸一年早い。理由は明白。校長の定年退職は式典から二週間後の三月末だった。自作自演の花道を画策したのだ。

繁忙期を避け、前年秋に式典挙行は許容

範囲。だが「前年度」に繰り上げは暴走だ。長老の元校長が駆けつけ諫言したが手遅れ。数年前から準備してきた校友会記念事業「校史刊行」にも大影響が生じた。最初で最後の全体委員会の席上、私は「式典のタイトルが慣例と違うのはなぜか」と校長に質問。すると「教育委員会の指示に従いました」と逃げたのである。

全容を知る当時の関係者はまだ大勢いる。このたびの記念誌は、当該箇所を「創立百二十年記念式典」にして、実態に沿うべきだった。

昨年十一月、区内一番校の阪本小学校が開校百五十周年記念式典・祝賀会を催し、お招きにあずかった。おめでとうございませう。同校の「満年齢」に拘る姿勢は素晴らしい。二番校・久松小から一年遅れ、実施要件を満たしたうえで挙行した。児童数は少ないが地元関係者の結束は見事だった。小川優校長の誠実な人柄にも惹かれた。

（校友会元会長）

還暦を過ぎても

昭和四十八年卒業 会田 初子

コロナも落ち着き新しい春の気配を感じる頃、近所の同級生からホームカミングのお誘いがありました。

私たちは、ちょうど還暦の歳にコロナ禍に入り、節目の集まりもお祝いも延び延びになっていたので、小学校に呼ばれることは、なにより嬉しかったです。

ホームカミングは年度幹事と違い、学校のお手伝いもなく、何年振りかと同級生の顔を見てお喋りに興じることができると聞いていましたが、いつのまにか『同窓会』という一大イベントへ続くラインにも乗っていました。

そして、そのラインはものすごいスピードで進んで行き、その上に立つ人も増えていったのです。さらに手持ちのスマホアプリにあるグループの人数も、いつのまにか増えていました。

途中、三十五度を超える日が続き雨も降らず熱帯夜の続く、文字どおり『熱い夏』を越えてもスピードは収まらず、少し涼しくなった十一月の日曜日に同窓会が開かれました。

この日浜町のレストランに集まったのは、スマホグループの人数にしては少なめで当初の予定よりは少し多めの三十二名でした。個人情報保護法やジェンダーレス社会、ハラスメントなど還暦過ぎの私たちには耳慣れない言葉が横行する、せちがらい令和の世に、あのころと変わらない同窓生たちの元気な笑顔は、過ぎた真夏の太陽のように眩しいものでした。

お店の用意してくれた美味しいランチは懐かしさに押されて食べる時間が足りなくなり、別れの時間が来て友たちの熱は冷めることがあります。

解散のあと、二次会に向かうエルダーたちを夕日が照らし、伸びた影にはいつかの小学生の姿が重なりました。

「元気でいたら、またあえるよね」

その後、三クラス合同だったひとつのグループは、いくつもの小さな輪になり拡がって行きました。そのうち、また大きな輪になって戻ってくるのでしょうか。



昭和50年卒 還暦同窓会

昭和五十年卒業 小山 登美夫

昭和50年卒業、60歳還暦の同窓会が開かれました。私は久しぶりの同窓会でドキドキしながら会場である東京シテイエアターミナルの二階の「龍鳳」に恐る恐る足を運びました。

小学生の頃のあだ名は「デブチョン」。昔、でぶっていうのはいじめだと思えます！という問題にしてくれた同級生がいたので、当の本人の私は何にも気にもしておらず、言ってくれた子は拍子抜けしたんじゃないかな、悪いことしたな、というのを同窓会のときにはなんとなく思い出します。いまも、太っているからみんなすぐにわかったと思います。

レストランに入っていくと、デブチョン、デブチョンと声をかけてくれ、なんとなく昔の感じになっていきました。でも、顔が一致しない、という同窓生が何人もいて、

でも時間がたつにつれて、ちよつとした話し方や仕事や表情で、昔の顔が蘇ってくる、そんな経験をするのはこういう時だけなんだろうなと思うんです。

肉体の変化、それぞれの社会性が時間の経過とともに身に纏わりついている現実が面白い。いろんなキャラクターになっていつてる同窓生の小学生の頃の姿を思い出していると、そこに昔の写真が出てきて、さらにあーこんなことあったと、記憶を補足してくれる。小学校の時の時間ってすごく濃かったなーとしみじみ思います。

なにになつていくのかわからない状態の時期に何故か一緒に教室にいて勉強？をしていく。苦手な体育の時間も同じ体操服をきて校庭に出ていきました。デブだったので、給食の時間は楽しかったです。その後の授業の時は、ちゃんと起きてたのかな？居眠りしてたか記憶は都合よく消えているみたいです。新しい校舎を作っている間に十思小学校に間借りしてたこともあります。でも、その記憶はあまりない、不思議です。

新しい校舎ができた時はうれしかったなー。そんな経験を一緒にしてきた同窓生と48年を経た同窓会は、中学、高校、大学の同窓会とも違う特別な時間でした。



開校150周年記念事業の製作物を贈呈

校友会は開校150周年記念事業として、母校所蔵の周年行事写真の修復を行いました。90周年から140周年までの周年行事写真をデジタル化、鮮明化処理を行い、レプリカを作成しました。さらに90周年行事写真はカラー化を行い、カラー版のレプリカを作成しました。2023年5月10日に校長室で校友会会長から校長先生へ完成したレプリカの贈呈式を行いました。贈呈したレプリカは校長室の会議室に展示し、オリジナルの周年行事写真は、劣化を避けるために温度変化の少ない暗所に保管しています。

学校への贈呈物：

- ① 90周年～140周年行事写真のレプリカ（90周年は白黒とカラー）7種類
- ② 周年行事写真のデジタル化、鮮明化処理を施した電子ファイル374ファイル



贈呈式後の写真（右が川口会長）



贈呈物をご覧になる植村洋司校長

久松幼稚園が移転します

小学校の35人学級への移行と久松小学校の児童数増加により、教室が不足することになりました。対策として、幼稚園を常盤小学校内に移転し、幼稚園の空いた場所に小学校を拡張します。移転後の幼稚園の名称は「中央区立常盤園舎久松幼稚園」になります。

移転の時期は、全学年一斉に令和6年2学期です。常盤小学校での幼稚園は1学年2学級ずつになります。通園バスを準備し、通園方法は徒歩またはバスになります。



屋上園庭



保育室

■年度幹事



今年の年度幹事（昭和59年、平成6年、平成16年、平成26年卒）の皆様、本当にご苦労様です。ありがとうございました。

■校友会運営委員一覧

| | |
|----------|--------------------------|
| ◎会 長 | 川口修一郎（昭53） |
| ◎副会長 | 杉山寿英（昭56） |
| ◎書 記 | 正：大野由貴子（昭46） 副：不在 |
| ◎会 計 | 正：盛田繁子（昭47） 副：不在 |
| ◎編集長 | 三部 健（昭51） |
| ◎庶 務 | 大野由貴子（昭46）兼務 三部 健（昭51）兼務 |
| ◎委 員 | 齊藤淳子（昭56）長堀 弘（平14） |
| ◎監査役（2名） | 不在：会長、副会長、庶務で対応 |
| ◎相談役 | 中村正信（昭37） |
| ◎総会サポーター | 松下久子（昭46） 江藤照美（昭54） |

～運営委員大募集です！～

校友会の活動を次の世代に引き継ぐべく、運営委員を常時募集しています。皆様のお力を是非お借りできませんか？160周年に向けて皆さんのお力で校友会を盛り上げましょう。

校友会は毎年5月の総会に向け、校友会だよりの編集、校友会総会、イベントの企画を主に行っています。最近では運営委員をお引き受け頂ける方が、激減しています。上記の通り運営委員役員に空席が出るほどになってしまいました。現在は数人での活動となり、人手が不足、運営委員会の活動が困難な状況になっています。

短期間や一作業でのお手伝いでも構いません。これなら出来ます！と、手を上げて頂ける事を願っています。運営委員会は、通常毎月第2木曜日 19：00～浜町コミュニティールーム（浜町1-2-3）で行っています。お気軽にお越しください。校友会の継続にお力をお貸しください。

運営委員会の開催予定は変更になる場合があります。最新の開催予定はホームページをご覧になるか、メールにてお問い合わせください。

運営委員に関するお問い合わせ先：

川口修一郎（校友会会長）090-3222-3995

運営委員募集と年会費・基金のお願い

校友会の運営を円滑に進めるためには人手と活動のための資金が不足しています。校友会の継続のためには皆さまのお力を是非お貸してください。

年会費・校友会基金にご協力を

今年もまた別表の通り、多くの方々から、貴重なご芳志をお寄せいただきました。引き続きご協力のほど、よろしくお願いいたします。

基金は一口1,000円で口数は任意です。また、年会費は1名分1,000円となっております。

【郵便振替】

口座名 久松小学校校友会

口座番号 東京00190 7 189503

添付の払込取扱票を使用の場合は払い込み手数料が無料です。ただ現金支払いの場合、1件110円の払込人負担が加算されますのでご負担下さい。

尚、払込用紙には卒業年組をできるだけお書き下さい。送付封筒のお名前前に記載があります。

【銀行振込】

みずほ銀行横山町支店 普通1482776

口座名 久松小学校校友会

振込手数料はご負担ください。銀行振り込みの場合、送付封筒に記載してある卒業年度をお名前前のご記入ください。

【手渡し】手渡しでもお受けします。お近くの校友会運営委員にお渡しください。

基金、年会費に合計1万円以上のご寄付をいただいた方に、お礼の品（校友会特製ノート）を送らせて頂きます。



年会費、基金の状況について

以下の表は最近5年間の年会費基金の入金状況です。皆様のご好意により、校友会は活動を継続できているのが現状です。ただ、最近の2年間は年会費の入金額が減ってきています。校友会だよりをお届けする人数に対して払込率は約2.2%となっております。校友会会員の皆様、校友会を続けていくためにより一層の年会費、基金をよろしくお願いいたします。

| 年度 | 年会費 | 基金 | 広告費 | 繰越額 |
|------|---------|---------|-----------|---------|
| 2018 | 137,000 | 469,000 | 780,000 | 629,522 |
| 2019 | 166,000 | 376,000 | 935,000 | 796,679 |
| 2020 | 237,000 | 291,000 | 960,000 | 879,725 |
| 2021 | 202,000 | 296,000 | 1,000,000 | 871,093 |
| 2022 | 126,000 | 342,000 | 710,000 | 592,828 |

中央区立久松小学校校友会会則

- 第1条 本会の名称を中央区立久松小学校校友会とする。
- 第2条 本会は、会員相互の親睦、情報交換、母校のより良い教育環境構築へ支援を図ることを目的とし、特定の政党、宗教等の活動の場としてはならない。
- 第3条 本会会員の構成は下記の通りとする。
- ・正会員 久松小学校の卒業生および在籍した者
 - ・特別会員 久松小学校の職員ならびに旧職員
 - ・名誉会員 終身名誉会員である久松昂子氏とする。
- 第4条 本会の運営は、久松小学校校友会運営委員があたり、下記の運営委員をおく。
- ・会長 1名
 - ・副会長 若干名
 - ・書記 正副各1名
 - ・会計 正副各1名
 - ・編集長 1名
 - ・庶務 若干名
 - ・委員 数名
 - ・監査役 2名
- いずれも正会員中より選出する。
- 尚、運営委員とは別に相談役を置くことができる。
- 相談役は過去の運営委員（旧名称：常任幹事）から運営委員会の議決をもって選出する。相談役は、運営委員会から相談された時、適切な助言をするものとする。
- 第5条 会長の任期は1期2年とし、最長で4期8年とする。
- 副会長、運営委員、監査役の任期は1期2年とし、再任を妨げない。
- 相談役を除く役員の任期の最終期限は卒業60年目とし、当該年の総会終了をもって定年退任とする。
- 第6条 本会の総会は毎年1回、5月第4日曜日に開催する。
- 通年の活動のうち、総会開催に向けての一連の作業は、卒業後10年、20年、30年、40年を迎えた学年に当番年度幹事を依頼し、運営委員との連携のもとに行われる。
- 第7条 必要に応じて、臨時総会を開催する。その時期は運営委員会により決定される。
- 第8条 本会の運営は入会金、会費、寄付金、基金等により維持する。
- 尚、会計期間は毎年7月1日から翌年6月30日とする。
- 第9条 本会の収支決算は監査役の監査を経た後、運営委員会、総会の順に承認を得る。
- 第10条 本会の事務局は、〒103-0005 東京都中央区日本橋久松町7-2 中央区立久松小学校に置く。
- 第11条 本会則の変更は、運営委員会にて協議、議決し、総会において出席会員の過半数の同意を得て変更できるものとする。
- 総会を欠席する会員は、委任状による賛否の意思表示を可能にする。
- 但し、委任状無く欠席した場合は棄権とみなすものとする。
- 第12条 本会の運営上、想定外の事態が起きた場合、必要に応じ、母校、及び関係各団体等と十分な連携を図り、より良い結論を得よう努力する。
- 第13条 運営委員及び相談役の行動には公明正大さが求められる。本会の活動理念に违背する行為があった時、運営委員会では慎重審議のうえ、解任・除名を行う。
- 第14条 本会則に無い事案については、運営委員会では誠意をもって協議し決定するものとする。

内規 第4条、及び第13条に関して

- ・校友会会長は、組織の独自性を守り、校友会の代表として純粋に機能する為、母校PTAまたは久松陸会の会長を兼任する事は出来ない。
- ・運営委員及び相談役はその肩書きを利用して、個人的な営利を図ることができない。
- ・相談役は、その知識・経験を会の運営に生かすよう運営委員会との連携を心がける。

本則／平成26年5月施行。

※平成21年5月 久松昂子氏を終身名誉会員に推戴。

中央区立久松小学校校友会 運営委員会会則

(名称及び事務局)

第1条 本会は「中央区立久松小学校校友会運営委員会」と称し（以下、本会とする）、事務局を東京都中央区日本橋久松町7-2、中央区立久松小学校（以下、母校とする）内に置く。

(目的)

第2条 本会は、母校校友会の会員相互の親睦等を目的とする母校校友会の会則の趣旨に則り、その円滑な運営を活動の目的とする。

(活動内容)

第3条 本会は、前項の目的を達成するために次の事項を行う。

- (1) 母校校友会の総会の開催に関すること
- (2) 母校の記念行事ならびに事業に協力すること
- (3) 機関誌「校友会だより」の発行・発送に関すること
- (4) その他、目的達成に必要な事業に関すること

(運営委員会)

第4条 本会には次の運営委員（以下、会員とする）を置く。

- 会長（1名）、副会長（若干名）、書記（若干名）、
会計（若干名）、編集（若干名）、庶務（若干名）、
委員（数名）、監査（若干名）、総会サポーター（若干名）
尚、運営委員と別に相談役を置くことができる。

(会員の定義)

第5条 会員は母校校友会を応援して下さる方とする。

尚、相談役については過去の本会（旧名称：常任幹事会）の運営委員より選出する。

(会員の職務)

- 第6条
- (1) 会長は本会を代表し会務を総括し、総会における議長を担当し、最終決裁を行う。
 - (2) 副会長は会長を補佐し、会長不在の場合はその職務を代行する。また、会長が最終決裁をできない状態にある時は、副会長のうちの一人が会長に代わって最終決裁を行う。
 - (3) 書記は会長の指示に従い本会の記録事務を総括し、総会時に事業報告を行う。
 - (4) 会計は会長の指示に従い本会の会計事務を総括し、総会時に会計報告を行う。
 - (5) 編集長は会長の指示に従い、機関誌「校友会だより」の編集を行い、毎年4月上旬に発行する同誌を遅滞することなく、校友会会員に配布する。
 - (6) 庶務は会長の指示に従い本会の円滑な運営のための事務作業を統括する。
 - (7) 監査は本会の実施事業および会計事務を監査し、総会時に監査報告し、総会での承認を得る。
 - (8) 相談役は会員から相談があった場合に、その案件に関して必要な助言を行う。
 - (9) 総会サポーターは、総会開催の前日及び当日の準備、設営、運営、撤収などの実施作業全般を担うものとする。

(任期)

第7条

本会会員の任期は2年とし、再任を妨げない。

但し、会長については初任期間を含めて通算4期8年間を限度とし、いずれもその任期の最終期限は卒業後60年目とし、当該年の総会終了をもって定年退任とする。

(会議)

第8条

(1) 総会

総会は本会の最高議決機関であり、原則として毎年5月第2金曜日に開催する。また必要に応じ、運営委員会の臨時総会を開催することができる。その時期は本会によって決定される。

(2) 正副会長会議

同会は会長が招集し、月次運営会議（次項参照）を円滑に進めるため、議題について話し合う。尚、必要に応じ、議題に関する会員等の参加を認める。但し、意思の合意、議決の誘導の場としてはならない。

(3) 月次運営委員会

同会は総会に次ぐ議決機関であり、原則的に毎月第二木曜日に会長が招集する。総会に提出する諸議案や同会で協議した各種議題の実施内容について決議する。尚、議決にあたっては、相談役を除く会員のうち出席者の過半数により可決する。

(4) 当番年度幹事・運営委員合同会議

当番年度とは、卒業後10年、20年、30年、40年の年度を指し、その学年に幹事を依頼し、会長が招集し、総会当日まで会員と連携し、「校友会だより」の作成、総会運営に関する打ち合わせを行う。

(5) 事務局

事務局は母校内に置かれ、常駐するものはないが適宜に母校側と連絡を取り、本会に関する諸行事が遅滞なく進行できるよう主に庶務が担当し全体的な連絡・調整を行う。

(会計)

第9条 本会に要する経費は運営委員会の決定により、入会金、会費、寄付金、基金等により維持するものとする。尚、会計期間は毎年7月1日から翌年6月30日とする。

(母校との連携)

第10条 本会が必要に応じ、母校および関係各団体等と十分な連携を図り、各種事業の実施を行う。

(休会及び解任)

第11条 会員の心身等の理由により職務の執行に耐えない時、または会員にふさわしくない行為があった時は本会の議決により休会もしくは解任することができる。

(除名)

第12条 会員が次の各号のいずれかに該当する時は、同会の議決により除名することができる。

(1) 母校の名誉を傷つけ、または校友としての品位を害する行動、言動があった時。

(2) 校友会の秩序を乱した時。

(3) 故意、または重大な過失により、母校、校友会、もしくは本会に損害を与えた時。

(会則の変更)

第13条 会則の変更については、本会則第8条3項により、本会月次運営委員会に於いて協議・議決される。

第14条 本会則に無い事案については、会員の誠意をもって協議し決定するものとする。

(附則)

この会則は令和4年3月10日より施行する。

本会則に記載あることに相違ありません。

東京都中央区日本橋久松町7-2

中央区立久松小学校 校友会 会長 川口修一郎



きれいな環境のお手伝い

丸十薬品株式会社

倉谷宏孝 S44

倉谷通孝 S47

令和4年度事業報告

2022（令和4）年7月1日～2023（令和5）年6月30日

書記 中谷久子

| 月・日 | |
|--------|--|
| （令和4年） | |
| 7・14 | 浜町コミュニティルームにて運営委員会。初顔合わせの会の宛名書き。 |
| 8・30 | 浜町コミュニティルームにて運営委員会。初顔合わせの会の宛名書き。 初顔合わせの会のご案内状封入及び発送作業。 母校2階家庭科室にて周年準備委員会に出席。 |
| 9・8 | 浜町コミュニティルームにて運営委員会。 校友会だより広告、周年行事基金の確認。 |
| 9・20 | 浜町コミュニティルームにて運営委員会。 初顔合わせの会の配付資料及び出席者確認。周年事業の決定。 |
| 9・27 | 母校2階家庭科室にて周年準備委員会に出席。 |
| 10・8 | 母校2階家庭科室にて年度幹事との初顔合わせの会。 |
| 10・13 | 浜町コミュニティルームにて運営委員会。周年行事の確認。 |
| 10・18 | 母校2階家庭科室にて周年準備委員会に出席。 |
| 10・27 | 母校2階家庭科室にて周年準備委員会に出席。 |
| 11・10 | 浜町コミュニティルームにて運営委員会。 周年行事関連打合せ。校友会だより発送日決め。 |
| 11・16 | 浜町グラウンドにての周年行事イベントに出席。 （幼・小演技と記念風船飛ばし） |
| 11・17 | 母校2階家庭科室にて周年準備委員会に出席。 |
| 11・20 | 母校2階家庭科室にて、年度幹事会。オンライン（ZOOM）も利用。 |
| 11・21 | 浜町コミュニティルームにて印刷会社と打合せ。 |
| 12・1 | 浜町コミュニティルームにて運営委員会。 校友会だよりへの寄稿願い作成。周年行事式典参加者確認。 |
| 12・3 | 母校にて周年記念行事参加。 |
| （令和5年） | |
| 1・12 | 浜町コミュニティルームにて運営委員会。寄稿原稿の確認。 |
| 1・15 | 母校2階家庭科室にて年度幹事会。 |
| 1・17 | 母校2階家庭科室にて周年準備委員会に出席。 |
| 2・9 | 浜町コミュニティルームにて運営委員会。 校友会だより広告。寄稿原稿入稿状況確認。 |
| 2・26 | 母校2階家庭科室にて、年度幹事との合同運営委員会。 周年行事の確認。 |
| 3・12 | 母校2階家庭科室にて、年度幹事会。 |
| 3・15 | 母校会議室にて業者と打合せ。 |
| 3・16 | 浜町コミュニティルームにて運営委員会。 周年記念事業に関して業者との打ち合わせ。 |
| 3・19 | 母校2階家庭科室にて年度幹事との合同運営委員会。 総会に関する打ち合わせ。広告確認。オンライン（ZOOM）も利用。 |
| 3・29 | 浜町コミュニティルームにて運営委員会。 周年行事に関する打ち合わせ。 |
| 3・31 | 浜町コミュニティルームにて運営委員会。 業者同席にて周年事業に関する最終決定。 |
| 4・13 | 浜町コミュニティルームにて運営委員会。 |
| 4・23 | 母校2階家庭科室にて年度幹事との合同運営委員会。 校友会だより校内配布用の準備。 ポスター作りなどの作業。総会打ち合わせ。 |
| 4・28 | 浜町コミュニティルームにて周年事業業者との打ち合わせ。 |
| 5・10 | 母校校長室にて周年事業品贈呈式。 |
| 5・11 | 浜町コミュニティルームにて運営委員会。 校友会だより印刷代、総会経費の確認。 |
| 5・21 | 母校家庭科室にて年度幹事との合同委員会。 オンライン（ZOOM）も利用。総会に向けての最終確認。 |
| 5・27 | 母校4階体育館にて総会準備作業。設営。 |
| 5・28 | 母校4階体育館にて校友会総会を開催。 |
| 6・8 | 浜町コミュニティルームにて運営委員会。総会反省。 年度幹事との校友会総会振り返り反省会議は7月13日に行いました。 |

令和4年度会計報告

収支報告書

2022（令和4）年7月1日～2023（令和5）年6月30日

| 収入の部 | | 支出の部 | |
|-----------|-----------|--------------|-----------|
| 前期繰越金 | 871,093 | | |
| 《会誌関係》 | | 《会誌関係》 | |
| 広告 | 710,000 | 本誌(発行6,100部) | 627,000 |
| 基金 | 342,000 | 発送費 | 438,158 |
| | | 本誌作成費 | 5,051 |
| 《総会関係》 | | 《総会関係》 | |
| 年会費・基金・ | 52,000 | 総会運営費 | 96,399 |
| 祝儀(総会当日分) | | 瓦せんべい代 | 68,040 |
| | | 当日保険 | 24,650 |
| | | アトラクション代 | 50,000 |
| | | 当日飲食代 | 65,967 |
| 《運営関係》 | | 《運営関係》 | |
| 入会費 | 112,000 | 卒業記念品費用 | 92,400 |
| 年会費 | 126,000 | 出席交通費 | 76,412 |
| 受取利息 | 13 | 振込手数料 | 22,566 |
| | | 通信費 | 6,785 |
| | | ホームページ運用費 | 27,300 |
| | | 事務費 | 1,633 |
| | | 常任委員会費 | 17,917 |
| | | 次期繰越金 | 592,828 |
| | 2,213,106 | | 2,213,106 |

周年行事基金積立金 残高報告書

| | | | |
|---------|-----------|---------|-----------|
| 前期繰越金残高 | 1,877,459 | 150周年祝儀 | 500,000 |
| 基金入金 | 48,000 | 写真のカラー化 | 632,900 |
| | | 雑費 | 2,975 |
| | | 次期繰越金 | 789,584 |
| | 1,925,459 | | 1,925,459 |

資産報告

| | | | |
|-----|-----------|-----------|-----------|
| 預貯金 | 1,367,913 | 次期繰越金 | 592,828 |
| ナナコ | 2,674 | 周年行事基金積立金 | 789,584 |
| 現金 | 11,825 | | |
| | 1,382,412 | | 1,382,412 |

上記の通り報告いたします。

会計 盛田 繁子(昭47)

監査 大野由貴子(昭46)

校友会当日、角田元良先生より御祝儀をいただきました。

| | |
|--|---|
| <p>お好焼・鉄板焼</p> <h1>松浪</h1> <p>中央区日本橋人形町 2-25-6 電話 03-3666-7773 03-3666-1054 落合 玉枝(昭59)</p> | <p>平成6年卒業生</p>  <p>1988-1994</p> |
|--|---|

令和4年度基金寄付者ご芳名録

2022(令和4)年7月1日~2023(令和5)年6月30日 (順不同 敬称略)

| | | | |
|--------------|--------|----------------|--------|
| (昭和34年) | | (旧職員) | |
| 樋山 憲治 | 1,000 | 田邊 秀夫 | 3,000 |
| 渡辺 誠 | 2,000 | (故) 佐藤 恭子 | 4,000 |
| 尾澤 道夫 | 1,000 | (昭和13年) | |
| (昭和35年) | | 坂 園子 (畑) | 1,000 |
| 松波かほる | 5,000 | (昭和14年) | |
| 日比 進 | 1,000 | 平柳 稔定 | 1,000 |
| 横島 邦子 (岩田) | 2,000 | (昭和16年) | |
| 安部田 貞昭 | 1,000 | 北村 晴子 | 4,000 |
| 高木 為嗣 | 4,000 | (昭和18年) | |
| 田邊 明 | 2,000 | 秋庭 信夫 | 1,000 |
| 小山 哲司 | 2,000 | (昭和19年) | |
| (昭和36年) | | 小田 保中 | 30,000 |
| 井上 泰子 (吉村) | 2,000 | (昭和20年) | |
| 東 章二 (樋山) | 1,000 | 池本 智美子 | 4,000 |
| 赤坂 雅恵 (長田) | 1,000 | 中村 芳子 | 10,000 |
| 中島 務 | 2,000 | (昭和21年) | |
| 土屋 つや子 | 1,000 | 山田 良三 | 2,000 |
| 松木 教子 (田中) | 2,000 | 福田 錦二 | 5,000 |
| (昭和37年) | | 小川 美登里 (荒居) | 3,000 |
| 新井 正子 (山本) | 5,000 | 掛川 宣雄 | 1,000 |
| 上代 晴久 | 1,000 | 中村 作二 | 1,000 |
| 関 眞弓 (目黒) | 1,000 | 森 國城 | 4,000 |
| 河野 晴行 | 1,000 | 村松 重徳 | 5,000 |
| 中谷 久子 (笠井) | 4,000 | 神代 百合子 | 1,000 |
| 佐々木 美知子 (飯田) | 3,000 | (昭和22年) | |
| 田中 豊 | 4,000 | 竹内 貞夫 | 2,000 |
| 後藤 保 (住谷) | 1,000 | (昭和24年) | |
| (昭和38年) | | 山田 春江 (吉田) | 2,000 |
| 鈴木 裕基子 | 1,000 | (昭和25年) | |
| 齋藤 三保 (鈴木) | 2,000 | (故) 篠原 晶子 (石田) | 1,000 |
| (昭和39年) | | (昭和26年) | |
| 三上 芳保 | 1,000 | 竹内 輝雄 | 1,000 |
| 笠井 秀一 | 2,000 | 原 朗 | 2,000 |
| (昭和40年) | | (昭和28年) | |
| 越尾 静江 (中島) | 1,000 | 天羽 弘子 (館) | 2,000 |
| (昭和41年) | | 松原 亨 | 5,000 |
| 鈴木 良一 | 1,000 | 五島 秀幸 | 2,000 |
| 遠藤 眞喜子 (大山) | 1,000 | (昭和29年) | |
| 前田 賀子 | 1,000 | 大塚 照男 | 1,000 |
| (昭和42年) | | 岩岡 隆 | 1,000 |
| 藤本 真存 | 20,000 | 長山 一夫 | 9,000 |
| (昭和43年) | | (昭和30年) | |
| 小柴 基男 | 1,000 | 齊藤 和臣 | 1,000 |
| (昭和45年) | | (昭和31年) | |
| 中島 昌枝 | 10,000 | 小島 照子 (渡辺) | 3,000 |
| (昭和46年) | | 野島 喜一郎 | 2,000 |
| 松下 久子 | 2,000 | 北村 忠司 | 4,000 |
| (昭和47年) | | 田島 正雄 | 2,000 |
| 仁村 議子 (飯塚) | 2,000 | 稲崎 祥二 | 5,000 |
| 橋本 由美子 | 2,000 | 本田 貫一 | 2,000 |
| 齋藤 知也 | 10,000 | 矢口 弘夫 (茄子倉) | 3,000 |
| (昭和48年) | | (昭和32年) | |
| 矢成 伸子 (川井) | 1,000 | 西明 帝子 (内藤) | 1,000 |
| 佐野 英人 | 1,000 | 清水 恭一 | 4,000 |
| S48有志 | 16,000 | 小路 明 | 1,000 |
| (昭和51年) | | 西明 帝子 (内藤) | 2,000 |
| 三部 健 | 10,000 | 関野 昭幸 | 10,000 |
| (昭和52年) | | 岩崎 美栄子 (大川) | 2,000 |
| 岡野 栄一 | 2,000 | 市川 隆通 | 2,000 |
| (昭和53年) | | (昭和33年) | |
| 佐々木 孝全 | 5,000 | 野口 英一 | 2,000 |
| 山本 邦博 | 10,000 | 野口 英一 | 3,000 |
| (昭和54年) | | 辻 尚平 | 2,000 |
| 原 春夫 | 10,000 | | |

| | | | |
|-------------------|-------|-----------------------|--------|
| (平成18年) 大木田 采弓 | 4,000 | (昭和56年) 橋爪 愛 (佐々木) | 1,000 |
| (平成27年) 田村 遼一 | 1,000 | (昭和57年) 関司 薫 | 3,000 |
| (平成28年) 伊藤 朔之助 | 1,000 | (昭和58年) 丸山 朝子 (澤) | 5,000 |
| (平成29年) 田村 正臣 | 1,000 | (昭和59年) 中川 康二郎 | 1,000 |
| (平成31年) 篠塚 太希 | 1,000 | 神保 貴 | 10,000 |
| (令和2年) 石崎 純 | 1,000 | (昭和62年) 藏田 幸三 | 1,000 |
| 武田 弘美 | 1,000 | (昭和63年) 曾我 竜也 | 10,000 |
| (卒年不明) 匿名 | 5,000 | (平成元年) 森 量裕 | 2,000 |
| 匿名 | 4,000 | 森 量裕 | 2,000 |
| | | (平成17年) 大木田 晃唯 | 4,000 |

令和4年度150周年基金寄付者ご芳名録

2022(令和4)年7月1日~2023(令和5)年6月30日 (順不同 敬称略)

| | | | |
|------------------|--------|---------------------------|--------|
| (昭和36年) 尾関 精一 | 1,000 | (昭和18年) 秋庭 信夫 | 1,000 |
| (昭和41年) 窪田 明 | 3,000 | (昭和21年) 山田 良三 | 2,000 |
| 中島 豊六 | 10,000 | (昭和24年) 山田 春江 (吉田) | 2,000 |
| (昭和57年) 関司 薫 | 3,000 | (昭和25年) (故) 篠原 晶子 (石田) | 10,000 |
| (平成27年) 田村 遼一 | 1,000 | (昭和29年) 大塚 照男 | 1,000 |
| (平成29年) 田村 正臣 | 1,000 | (昭和31年) 小島 照子 (渡辺) | 1,000 |
| (平成31年) 篠塚 太希 | 1,000 | (昭和32年) 西明 帝子 (内藤) | 1,000 |
| | | (昭和35年) 松波 かほる | 10,000 |

| | |
|---|--|
|  キッチン HATANO 波田野 詳 三(昭49) 菜々海(平24) |  NOB'S 57 SHOT 田中 延幸 (平6) 敬座 8-7-21 3F |
| スターモザイク Ster Mozaik ベルギーボビンレース教室 (S47卒) 盛田 繁子 TEL 080-5673-3791 | 日本橋スポーツ少年団 (久松クラブ) hisamatsu.c@gmail.com |
| 株式会社ハヤシ配送サービス 〒130-0021 東京都墨田区緑2-6-5 電話 03-3634-2941 FAX 03-3846-0544 林 秀行 (昭和48年卒) E-mail: info@hayashi-hs.co.jp |  鳳凰軒 中央区日本橋馬喰町2-5-7 (鳳凰軒ビル1F) TEL 03-3661-1987 |

令和4年度会費納入者ご芳名録

2022(令和4)年7月1日~2023(令和5)年6月30日(順不同 敬称略)

| | | |
|----------------|--------------|----------------|
| 橋本 由美子 | (昭和33年) | (旧職員) |
| 齋藤 知也 | 野口 英一 | 田邊 秀夫 |
| 盛田 繁子 (橋本) 3年分 | 野口 英一 | (故) 佐藤 恭子 |
| (昭和48年) | 小田切 勝昭 | (昭和13年) |
| 矢成 伸子 (川井) | 辻 尚平 | 坂 園子 (畑) |
| 林 秀行 | (昭和34年) | (昭和14年) |
| 岡本 順子 | 樋山 憲治 | 平柳 稔定 |
| 会田 初子 (野中) | 渡辺 誠 | (昭和16年) |
| (昭和50年) | 尾澤 道夫 | 北村 晴子 |
| 栗田 和明 | (昭和35年) | (昭和18年) |
| (昭和51年) | 松波 かほる | 秋庭 信夫 |
| 三部 健 | 日比 進 | 片山 雅子 |
| (昭和52年) | 横島 邦子 (岩田) | (昭和20年) |
| 岡野 栄一 | 安部田 貞昭 | 池本 智美子 |
| 百瀬 京子 (山鹿) | 高木 為嗣 | (昭和21年) |
| (昭和53年) | 田邊 明 | 山田 良三 |
| 佐々木 孝全 | 小山 哲司 | 福田 錦二 |
| 川口 修一郎 | (昭和36年) | 小川 美登里 (荒居) |
| (昭和54年) | 井上 泰子 (吉村) | 掛川 宣雄 |
| 原 春夫 | 尾関 精一 | 中村 作二 |
| (昭和56年) | 東 章二 (樋山) | 萩野 洋子 |
| 橋爪 愛 (佐々木) | 赤坂 雅恵 (長田) | 森 國城 |
| 大塚 ふさ子 | 中島 務 | 村松 重徳 |
| (昭和59年) | 土屋 つや子 | (昭和24年) |
| 中川 康二郎 | 松木 教子 (田中) | 山田 春江 (吉田) |
| (昭和62年) | (昭和37年) | (昭和25年) |
| 藏田 幸三 | 説田 好伸 | (故) 篠原 晶子 (石田) |
| (昭和63年) | 新井 正子 (山本) | (昭和26年) |
| 曾我 竜也 | 上代 晴久 | 竹内 輝雄 |
| (平成元年) | 関 眞弓 (目黒) | 原 朗 |
| 森 量裕 | 河野 晴行 | (昭和27年) |
| 森 量裕 | 中谷 久子 (笠井) | 渡辺 俊夫 |
| (平成14年) | 佐々木 美知子 (飯田) | (昭和28年) |
| 松下 恵理 | 田中 豊 | 染谷 政孝 |
| (平成17年) | 小倉 裕子 | 天羽 弘子 (館) |
| 大木田 晃唯 | (昭和38年) | 松原 亨 |
| (平成18年) | 鈴木 裕基子 | 五島 秀幸 |
| 大木田 采弓 | 齋藤 三保 (鈴木) | (昭和29年) |
| (平成20年) | 上村 修三 3年分 | 大塚 照男 |
| 藤澤 大志 | (昭和39年) | 岩岡 隆 |
| (平成21年) | 三上 芳保 | 長山 一夫 |
| 松下 直樹 | 笠井 秀一 | (昭和30年) |
| (平成27年) | (昭和40年) | 萩小田 幸子 (五島) |
| 田村 遼一 | 越尾 静江 (中島) | 齊藤 和臣 |
| (平成28年) | (昭和41年) | 石島 正勝 |
| 伊藤 朔之助 | 窪田 明 | 山鹿 輝夫 |
| (平成29年) | 中島 豊六 | (昭和31年) |
| 矢野 碧人 | 鈴木 良一 | 小島 照子 (渡辺) |
| 浦辺 隆佑 | 遠藤 眞喜子 (大山) | 川田 克子 (村手) |
| 田村 正臣 | 前田 賀子 | 野島 喜一郎 |
| (平成31年) | (昭和42年) | 北村 忠司 |
| 篠塚 太希 | 藤本 真存 | 田島 正雄 |
| (令和2年) | (昭和43年) | 稲崎 祥二 |
| 浦辺 香帆 | 小柴 基男 | 本田 貫一 |
| 田口 大遥 | (昭和46年) | (昭和32年) |
| 石崎 純 | 宇田川 有智子 (倉田) | 西明 帝子 (内藤) |
| 武田 弘美 | 松原 淳子 (山崎) | 清水 恭一 |
| (令和5年) | 松下 久子 | 小路 明 |
| 鈴木 想真 | 大野 由貴子 (吉沢) | 西明 帝子 (内藤) |
| (卒年不明) | (昭和47年) | 関野 昭幸 |
| 匿名 | 甕 隆敏 | 岩崎 美栄子 (大川) |
| 匿名 | 仁村 議子 (飯塚) | 市川 隆通 |

令和5年度会費納入者ご芳名録

2023/7/1～2024/3/20の期間に年会費、基金を頂戴した方のお名前です。改めて、次号48号で金額とともにご紹介いたします。

| | | |
|--|--|--|
| <p>(昭和29年) 大塚 照男 (昭和32年) 郷 金二郎 (昭和34年) 黒澤 陽子 (昭和35年) 松波 かほる (吉田) (昭和37年) 村田 慎一 (昭和45年) 井上 武 (昭和46年) 北原 慶幸 (昭和51年) 三部 健 (昭和56年) 齊藤 淳子 (昭和59年) 中川 康二郎 S59年卒有志 (平成28年) 齊藤 雅 (平成31年) 齊藤 史晏 (令和5年) 齊藤 正英 (卒年不明) 匿名 匿名 (法人) 精華堂あられ</p> | <p>(昭和56年) 齊藤 淳子 (昭和59年) 中川 康二郎 (昭和62年) 赤岡 広一 (平成元年) 中村 伸美 (赤岡) (平成5年) 和田 美香 (赤岡) (平成6年) 長谷川 小百合 (赤岡) 新澤 知絵 (10年分) (平成8年) 赤岡 和成 (平成28年) 齊藤 雅 (平成31年) 齊藤 史晏 (令和2年) 田口 大遥 (令和5年) 田口 遼典 齊藤 正英 (卒年不明) 匿名</p> <p>■基金寄付者 (昭和21年) 山田 良三 福田 錦二 (昭和28年) 岩田 慎吾</p> | <p>■年会費納入者 (昭和19年) 杉山 記子 (川口) (昭和21年) 山田 良三 遠藤 光子 (牧野) 福田 錦二 (昭和27年) 渡辺 俊夫 (昭和28年) 岩田 慎吾 (昭和29年) 大塚 照男 (昭和30年) 荻小田 幸子 (五島) (昭和32年) 郷 金二郎 (昭和34年) 黒澤 陽子 (昭和35年) 松波 かほる (吉田) 江森 則雄 (昭和36年) 新谷 聖法 (昭和37年) 中村 正信 村田 慎一 説田 好伸 (昭和45年) 井上 武 (昭和46年) 北原 慶幸 (昭和51年) 三部 健</p> |
|--|--|--|

| | |
|--|--|
|  <p>人形町2-31-3 TEL 03-3666-6675 杉山 寿英 (昭和56年卒)</p> | <h2>和仁輪仁</h2> <p>代表 川口 修一郎 (昭53) 川口 泰輝 (昭55) 川口 正峰 (昭63) 川口 祐ノ輔 (平19) 川口 祐徳 (平21) 川口 祐紀賀 (平24)</p> |
|--|--|



令和6年校友会にご招待！！

5月26日（日）の校友会に以下の皆様をご招待いたします。皆様お誘いあわせの上でご来場ください！

ご卒業50周年のホームカミング（昭和49年卒の皆様）
二十歳のつどいを迎えられた方（平成28年卒の皆様）

いくつになっても母校は良いもの。まして懐かしい恩師・旧友に再会できるならなおさらです。どうぞお友達同士声を掛け合いご出席下さい。校友会で、こころゆくまでご歓談ください。



同期会のお知らせ

校友会に連絡が届いた同期会の情報です。幹事様と連絡が取れない場合は校友会までご連絡ください。幹事様に転送します。

S 35年卒6組：校友会総会当日に、指定の教室でクラス会を行います。

H6年卒：校友会総会当日に同期会を行う予定です。

校友会総会当日に同期会を行う学年・クラスは3月中旬までに連絡をお願いします。校友会だよりに掲載します。

令和7年校友会のお知らせ

令和7年の校友会は5月25日（日）の予定です。年度幹事は昭和60年卒、平成7年卒、平成17年卒、平成27年卒の方々です。校友会を盛り上げる為に、ぜひお力をお貸し下さい。

ホームカミング（昭和50年卒の皆様）および二十歳のつどいを迎えられた方（平成29年卒の皆様）は2025年（令和7年）の校友会にご招待申し上げます。コロナ禍により校友会でお会いできなかった皆さん、ふるってご参加ください。

毎年総会には、校長、副校長、PTA運営委員、近隣町内会、久松こども応援会（パパ会）、青少年対策地区委員会の皆様からご後援をいただいております。

昭和59年卒業生（年度幹事） 有志一同



| | | | |
|-------|-------|--------|-------|
| 安達 宣之 | 菊岡 大輔 | 田口 弘明 | 目崎 祥徳 |
| 磯部 徳史 | 岸田 彩 | 寺井 規雄 | 森住 聡 |
| 江藤 薫 | 鴻野 豊子 | 寺島 英樹 | 義田 千絵 |
| 鹿島 千鈴 | 古河 芳美 | 苗木 達二 | |
| 加納 淳郎 | 実石 浩 | 西川 佳朱美 | |
| 河邊 文 | 嶋田 継二 | 塙 匡史 | |

広告募集

あなたのお店や会社の広告を載せてみませんか？

多くの卒業生に読まれている「校友会だより」に、クラス会や同期会、同窓会、野球の勧誘、サークルのお誘いなどを掲載しませんか。広告料は下記の通りです。「校友会だより」の発刊を大きく支えている広告に、ぜひご協力ください。来年4月発行の本誌第48号に、広告掲載をご希望の方は、校友会メールアドレスまでご連絡下さい。校友会ホームページからも受け付けています。

| サイズ | 料金 | サイズ | 料金 |
|-------|---------|------|--------|
| 1P | 120,000 | 1/2P | 60,000 |
| 1/4P | 30,000 | 1/8P | 10,000 |
| 1/16P | 5,000 | | |

原稿募集

クラス会や同期会の原稿を募集します。次号第48号の締切は2025年1月末日です。

1. 文字原稿のみの場合は、本文が1100字以内で、写真を1枚併載する場合は、800字以内でお願いします。
2. 原稿冒頭に会の名称、卒業年、組、執筆者名を明記願います。
3. パソコンで作成された原稿の場合は、CD等での提出、メールあるいはホームページからのデータ送付も可能です。詳しくは下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

お問い合わせ先

校友会本部は、母校内に設けられておりますが、役員は常駐しておりません。文書は従来通り学校宛に郵送いただいて結構ですが、現金書留はお受けできません。また、直接学校に電話することはご遠慮ください。

中央区立久松小学校内 校友会事務局

〒103-0005 東京都中央区日本橋久松町7-2
TEL 090-3222-3995 川口修一郎 (校友会会長)

Email : hisamatsu.es.koyukai@gmail.com

校友会ホームページ :

<https://www.hisamatsu-es-koyukai.com>



校友会ホームページ

住所が変わられた方へ

住所を変更された方は、下記お問い合わせ先へお届け下さい。「校友会だより」が配達できません。また本誌がご不要の方もご連絡下さい。いずれもご住所、お名前 (旧姓)、ご卒業年又は生年月日、組、卒業時の恩師名をお伝え下さい。

なお、住所に関する連絡はホームページでも受け付けています。上記の校友会ホームページ QR コードをご活用下さい。

携帯電話では、川口修一郎 (校友会会長) 090-3222-3995 までお願いいたします。

校友会のホームページについて

ホームページでは、校友会総会のご案内、校友会だよりに関する情報、校友会の活動、運営委員会等の開催案内について発信しています。

また、校友会だよりは第44号からホームページでオンラインでの配布を行っています。

さらに、皆様方からの住所変更、住所連絡、校友会だより配送停止、校友会だより配送再開などの連絡を受け付けています。

一度、校友会のホームページにもお越しください。ホームページには以下のQRコードをご使用ください。

校友会ホームページ：<https://www.hisamatsu-es-koyukai.com>



校友会ホームページ



住所変更・連絡
配送停止・再開など



校友会総会のご案内

個人情報の取り扱いについて

中央区立久松小学校校友会

当会は個人情報の利用に関し、以下に掲げる事項を遵守します。

- ①個人情報の保護に関する法律に基づき、会員の個人情報等を以下の目的にのみ使用します。

校友会名簿管理・校友会だより送付・校友会運営・クラス会準備に必要な連絡。

- ②会員の公表されていない情報を、適切な運営の確保やその他必要と認められる目的以外に使用しません。

訃報

| | |
|-------------|--|
| 大和裕子 先生 | 2020年12月24日に逝去されました。 |
| 西村幸子 先生 | 2021年末に逝去されました |
| 大釜正明 先生 | 2023年2月26日に逝去されました。 |
| 村澤 晃 先生 | 2013年に逝去されました |
| 佐藤恭子 先生 | 2023年5月に逝去連絡を頂きました。 |
| 柳田博光さん(S37) | 2023年11月29日に逝去されました。ご友人から掲載の御要望がありました。 |

経費削減のため同一住所には1冊のみ発送させていただきました。従来通り複数冊の送付をご希望の場合は、校友会までご連絡ください。

※著者から頂いた原稿をそのまま掲載しています。

〈表紙題字〉 故 大石隆子先生

〈表紙写真〉 校舎壁面に掲揚されている校章・園章

校友会だより第47号 定価500円(税送料込)

2024(令和6)年4月1日発行

編集・発行 中央区立久松小学校校友会

〒103-0005 中央区日本橋久松町7-2

| | |
|---|--|
| <p>洋装雑貨卸 (株)細谷商店 横山町8-7 細谷 昌宏(昭36)</p> | <p>竹内 輝雄(昭26) 喜美子(昭30) 素子(昭43) 日本橋大伝馬町12-8 TEL(3661)2380</p> |
| <p>コンピュータから事務用品まで 株式会社 リーチ 横山町10-5 TEL 3664-5351 中村 雅昭(昭36) 中村 祐司(昭40) 中村(宮田) 順子(昭43)</p> | <p>(有)川名薬局 東日本橋3-7-3 ☎3661-9146 川名 信一(昭27) あかり(平27) 純一(昭58) 海 喜(平30) 佐智子(昭61)</p> |
| <p> FUKUMOTO 株式会社 フクモト TOKYO 本社 〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町2-1-4 TEL 03-3663-8541(代) FAX 03-3661-0360 福本 義朗(S37)</p> | <p>(株)戸田商店 東日本橋3-8-5 ☎3661-9111 代表取締役 戸田 昌男(昭28)</p> |
| <p>日本橋の紙鍋 「紙やきホルモサ」 本町1-10-2 江戸橋北 平成4年卒 坂田誠一郎</p> | <p>カメラ堂 東日本橋2-16-9 ☎3861-2566(代) 後藤 公夫(昭29)</p> |
| <p>本場大島袖・結城袖・高級呉服卸 株式会社 丸大商店 太田 雅久(昭37卒) 〒103-0004 東京都中央区東日本橋1丁目3番13号 電 話：03-3851-6384 F A X：03-3851-6385</p> | <p>焼鳥 よし田 吉田 実(昭31) 雄一(昭60) 豊(昭62)</p> |
| <p>創業明治17年 酒類卸・酒販店・カクウチ 株式会社岡永  日本名門酒会 / 岡本屋永吉商店 〒103-8380 東京都中央区日本橋馬喰町1-7-3 https://www.meimonshu.jp/</p> | <p>酒類販売 (株)勢州屋本店 富沢町10-15 03-3662-3721 岡田 玲子(昭32) 岡田 舞佳(平22) 横山ちさ子(昭56) 悠佳(平24) 岡田 昇也(昭58) 横山 里佳(平23) 梨乃(平23)</p> |
| <p> 中央区日本橋馬喰町1-4-11 有限会社古今 Tel 5642-7575 近藤栄美子(松島)(昭40卒) 江川安喜子(松島)(昭45卒) 江川 史朗 (平14卒) 江川 輝 (平17卒)</p> | <p>花槇生花店 東日本橋2-3-2 TEL 3851-8761 植野 光弘(昭34) 中原 恵未(平4) 植野 良一(平6)</p> |
| <p>小沢株式会社 東日本橋3-4-7 3662-0475 上野 一美(昭41) 小澤 正彦(昭43) 吉田 文恵(昭46)</p> | <p>タオル・手拭い各種名入れ 有限会社 平松 東日本橋1-3-6 TEL 03-3851-5091 矢川 春文(昭54) 美香(平18) 香織(平27)</p> |

| | |
|---|---|
|  <p>MARCHENART メルヘンアート 株式会社 www.marchen-art.co.jp 藤澤とみ子(昭50) 川端 康裕(昭51) 河合 啓江(昭54) 川端 昭宣(昭57) 〒130-0015 東京都墨田区横網 2-10-9 TEL. 03-3623-3760 FAX. 03-3623-3766</p> | <p>野球ユニフォーム・Tシャツ・ウインドブレーカー (株)タキ 中央区東日本橋1-1-19-4F TEL 03-3851-7714 代表 瀧 賢治(昭47卒)</p> |
| <p>三協堂 〒103-0007 日本橋浜町1-6-1 TEL 3866-1554 (代表) FAX 3861-5726</p> | <p>(有)三栄電機 馬喰町1-5-16 ☎3661-1671 山本 功(S43) 井上 京子(S51) 幸夫(S53)</p> |
| <p>初音森神社 東日本橋2-27-9 TEL 3863-1308 田部 裕子(昭48) 景子(平14)</p> | <p>EST. 1930 小宮商店 KOMIYA SHOTEN 〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-9-7 TEL 03-3661-9064 小宮 武 小宮 隆明</p> |
| <p>ダイヒロバッグ株式会社 横山町3-7 TEL 3664-8901(代) 代表取締役社長 村上 浩一郎</p> | <p> 久松小学校 校旗作成の実績  株式 三上旗店 三上 明夫(昭和43年卒) TEL:03-3663-8841 http://www.mikami-flag.co.jp</p> |
| <p> (有)大嶋屋本店 取締役社長 村山 均 〒103-0003 中央区日本橋横山町7-18 Tel:03-3663-7031 Fax:03-3663-7030</p> | <p>鳥井 龍吾(昭47卒) 大吾(平14卒) 眞美(平22卒) 田中 玲美(平17卒)</p> |
| <p> 株式会社 マスター カバン・ビジネスバッグ・スクールバッグ 他 増田 義雄 〒103-0003 東京都中央区日本橋横山町3-6 TEL 03-3663-4561 FAX 03-3663-4570 URL http://www.master1.co.jp/ e-mail:info@master1.co.jp/</p> | <p>理・美容 谷口育子の店 中央区福祉サービス券 承ります 東日本橋2-16-4 3851-4520 谷口 育子 瀬戸口 順子(S47) 貴志(H12) 潔(H19) 湧見(H14) 毅(H20)</p> |
| <p> 株式会社 角石 中央区日本橋横山町 2-1 tel:03-3661-9481 http://www.kakuishi.jp</p> | <p> まちいく キッズスクール 公式LINEはコチラ 東京都中央区東日本橋2-6-7</p> |
| <p>フレンチカフェ シェ・アンドレ ドゥ・サクレール 人形町1-8-5 TEL 03-6228-1053 益川 良雄 (昭和58)</p> | <p>(株)精華堂あられ総本舗 江東区清澄3-10-5 TEL 03-3641-9288 桑原 万代(昭53年卒) 清水 慶太(昭55年卒) 斉藤 夕子(昭57年卒) 桑原 拓也(平16年卒) 桑原 みらの(平20年卒) http://www.seikadoarare.co.jp</p> |

呉服卸

(株)飯島商店

中央区東日本橋3-9-5

TEL 3661-3610

飯島 孝夫 (昭37)

飯島 邦雄 (昭43)



ファッション専科総合卸

株式会社 宮入

日本橋横山町6-18

TEL03-3663-5211



堀越ネクタイ(株)

〒103-0004 東京都中央区東日本橋1-4-2

TEL 03-3863-1601(代)

E-mail : hoc@horikoshi.co.jp

<https://horikoshi.co.jp>

堀越 雅夫 (昭35)

堀越 滋 (昭38)

森本 恵美子 (昭62)

野崎 智香子 (平2)

堀越 喜美子 (平6)

踊・祭衣装

日本の歳時記 製造発売元

株式会社 佐藤 万

佐藤 寛(昭30)

佐藤 實(昭37)

久松町6-5

☎3664-3611

Eメールアドレス satoman@path.ne.jp

ホームページアドレス

<http://www.nihon-no-saijiki.co.jp>

株式会社

大森製パン

広田 道子 (大森・昭和21年)

秀之 (昭和51年)

隆之 (昭和57年)

呉服・白生地 ご相談ください。

(株)三優小長谷

sanyu.obase@gmail.com

東京手描友禅 淳工房 : 080-6682-2088

昭和56年卒 齊藤 淳子

有限会社 苗木旗店

中央区日本橋馬喰町2-5-12

TEL 03-3661-5380 FAX 03-3661-8640

E-mail : naeki-fs@onyx.dti.ne.jp

桂司 (昭和26年卒) 泰二 (昭和29年卒)

修司 (昭和56年卒) 達二 (昭和59年卒)

中央区東日本橋 2-10-4

とんかつ
生姜焼き
ラーメン

三好弥

電話 03-3866-3448

03-3863-3448

(有)福雅

横山町 4-5

TEL 03-3663-7211

代表取締役 福田 喜一 (昭44)



日本橋かわまた内科クリニック

内科・循環器内科・糖尿病内科

日本橋富沢町10-18 ☎03-3669-2626

川俣 博文

原 由美子 (昭30)

千依子 (昭58)

有加子 (昭63)

袋物卸

株式会社 正木屋

横山町 7-7
TEL 03-3661-6849

説田 好伸(昭和37卒)

中谷 久子(昭37卒)

笠井 秀一(昭39卒)

第一生命



公式LINE



1010010010



atelier hauoli

バレエ教室 スタジオパートワン

学園長

城野満佐子(昭35卒)

中央区日本橋大伝馬町17-3
☎03(3661)0425

株式会社 久松商事

外川 隆康
外川 光久

〒103-0005
東京都中央区日本橋久松町10番10号
(久松ビル)

TEL (03) 3661-3211(代)
<http://www.hisamatsu.co.jp>

携帯電話関連商品

株式会社 サンゴ

代表取締役 黒澤 関則
陽子

(旧姓 小池 昭34卒)

〒131-0043 東京都墨田区立花1-23-5-202-2
TEL 03-5247-4697

相続・遺言のご相談なら

相続まるごと支援センター
(税理士法人よしむら)

千葉県松戸市西馬橋幸町59

TEL 0120-37-8344

吉村 博(昭37卒)

文具を創り、文化を築く。

L!FE

ライフ株式会社

〒121-0836 東京都足立区入谷6-2-6
東京文紙流通センター B棟

TEL : 03-3855-1261 FAX : 03-3857-6304
<http://life-st.jp/>



日本橋中央歯科

Nihonbashi Central Dental Clinic

各種保険治療
小児 矯正 歯科
一般 歯科

小児歯科専門医が居ります。

〒103-0007

中央区日本橋浜町2-11-2

日本橋中央ビル2F



TEL **03-3664-8556**

物流業

食品・チルド・一般雑貨物流 倉庫業務

八大株式会社

日本橋人形町2-16-7

TEL 03-5534-2711

岩田 享也(昭61卒)

諸鳥鶏卵卸

資)大金鳥店

大橋 純子 (昭54)

鈴木 博子 (昭56)

(旧大橋)

大橋 晴代 (昭58)

〒103-0007

東京都中央区日本橋浜町2-5-6

TEL 03-3667-2441

FAX 03-3667-2400

(有)高虎商店

祭礼及び店用等半纏、てぬぐい、
のれん、袋物の製作販売

中央区日本橋浜町 2-45-6

高橋 堅 (昭54)


高橋 由布(昭56)

高橋 巧(昭58)



安田不動産

事務用品・OA用品・印刷

株式会社 **かめや**

〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-23-7

TEL 03-3666-5221 FAX 03-3667-3140

E-mail info@kameya-st.co.jp

URL http://www.kameya-st.co.jp

代表取締役 **渡辺 政博** (昭和51卒)



総合卸

株式会社エトワール海渡

ETOILE

代表取締役社長

早川 謹之助

〒103-8370

東京都中央区日本橋馬喰町1-7-16

電話 03-3661-1111(代)

www.etoile.co.jp



包装資材総合卸

株式会社 **ニシムラ**

西村 吉隆 (昭51)

西村 仁美 (平13)

西村 優実 (平18)

西村 隆介 (平23)

墨田区立川 4-13-10

TEL 03-3635-3161

割烹
浜町 西むら



浜町2-33-4
TEL 03-3666-7366

西村典子 (S58卒)
西村昌宏 (S60卒)
西村英孝 (S62卒)
西村明子 (S62卒)



新川屋
佐々木酒店

甘酒横丁

日本橋人形町2-20-3
TEL:03-3666-7662
FAX:03-3668-2553
www.Sasas.jp

本は人生を豊かにし、雑貨は生活を豊かにする、
そして笑顔は心を豊かにする

アスカブックセラーズ

中央区東日本橋2-2-4-1階 東日本橋駅前

幼児・幼年雑誌、絵本、図鑑、
学習ドリル、ジャポニカ学習帳、
学童文具、キャラクター雑貨、
バスボール、食器など豊富な品
揃えです。



河邊健太郎 (昭和57年卒業・6年2組)
千葉文 (河邊・昭和59年卒業)

焼鳥

おが和

人形町3-11-2
TEL 3661-8711

岩上 敬一 (昭38年卒)
佳夫 (平6年卒)

医療法人社団海生会
久松町まつらクリニック
Hisamatsuo Matsura Clinic

診療科目

内科 / 外科 / 消化器内科 /
内視鏡内科・外科 / 肛門外科

受付時間

9:30 ~ 12:30 / 15:00 ~ 17:30

診療時間

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 祝 |
|-------------|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10:00~13:00 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 15:30~18:00 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |

※ 休診日：木曜 / 祝日 / 土曜午後 / 日曜

〒103-0005
東京都中央区日本橋久松町10-8
フィルパーク日本橋久松町2階
☎ 03-6661-0024 Fax 03-6661-2024

院長 松浦 裕史

予約用QRコード



Hair Junction

浪花軒

Since 1887

日本橋人形町2-7-10
barber1887@gmail.com

大武 邦 (S29)
由紀子 (S61)
邦治 (H01)

平成16年 卒業生



1998  2004



家内安全・商売繁盛・交通安全・厄除他
御祈願随時受付けております。

笠間稻荷神社

中央区日本橋浜町二丁目十一番六
電話 ○三―三六六六―七四九八
FAX ○三―三六六六―七四三八

江戸三大不動
大本山 川崎大師 東京別院
薬研堀不動院
厄除・商売繁昌・開運

TEL. 03-3866-6220

御府内八十八ヶ所第二十三番札所
関東三十六不動霊場第二十一番札所

シモジマ店舗へ 是非ご来店下さい!

包装用品・学童文具・事務用品を
各種取り揃えております

取扱い品目

包装紙・紙袋・化成品袋・ボックス
ギフトカード・シール・POP用品
店舗ディスプレイ用品・粘着テープ
紐類・文具・事務用品・OA用品他

東京(浅草橋)・名古屋・大阪(心斎橋)他
直営店舗がございます。
詳しくはHPをご参照下さい。

夢を包み、心をつなぐ。



〒111-0053 東京都台東区浅草橋 5-29-8
TEL 03-3864-0061 FAX 03-3865-4470
<https://www.shimajima.co.jp/>

(株) 富士商会

横山町4-15
TEL 3663-8391

岩田 博(昭32)

(株) トーヨー 東洋地産(株)

横山町6-13
☎3663-9141~4

西沢 俊司(昭31)
郷 (昭58)



—日本橋エリアの経営革新をサポート—

株式会社福水戸家

平成3年卒 代表取締役 磯部一郎
連絡先：info@fukumitoya.co.jp

2024年(令和6年)校友会について

2024年(令和6年)の校友会総会は、母校体育館で開催します。皆様のお越しをお待ちします。

開催日時：2024年5月26日(日) 14:00～15:30

開 場：13:00

開催場所：久松小学校4F体育館

開催内容：①開会の言葉 ②会長挨拶 ③学校長挨拶
④事業報告 ⑤会計報告 ⑥監査報告
⑦校歌斉唱

アトラクション：中央区立日本橋中学校
吹奏楽部の演奏

皆様へのお知らせ：

1) 飲食物の販売はいたしません。

なお、校友会にて飲み物を若干数ご用意いたしますが、ご理解とご協力をお願いします。

2) 会場に消毒用アルコールを準備します。ご活用ください。

3) 13:00～16:00に久松資料館をご覧ください。

場所は増築棟5階です。



同期会

13:00～16:30の間、体育館や各教室で同期会を行えます。教室の使用をご希望の際は、当日校友会運営委員にお尋ねください。

■同期会開催予定の学年・組：S35年卒6組、H6年卒
P.31の同期会のお知らせを参照ください。

校友会からのお願い

校友会を続けていくためにも、年会費・基金のご協力と、校友会運営活動へのご協力を強くお願いします。詳しくはP.20～21をご覧ください。

校友会総会ご招待券

ホームカミング：S49年卒 (S36.4.2～
S37.4.1生)

二十歳のつどい：H28年卒 (H15.4.2～
H16.4.1生)

新入会員：R4～6年卒 (H21.4.2～
H24.4.1生)

の皆様、ご多忙とは存じますが、友達同士でお声がけを行い、お集まりください。

◎受付にこの招待状をお持ちください。

校友会よりささやかな記念品を贈呈いたします。

校友会確認印



中央区立久松小学校校友会